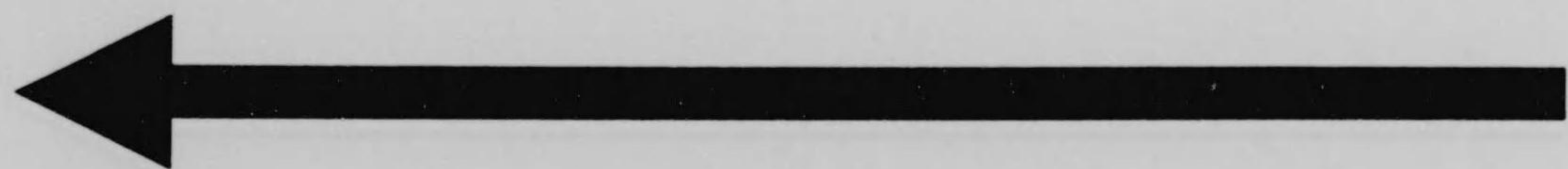




始



宮城縣稅要覽

382-82

序

文明ノ進歩ト事物ノ繁雜トハ常ニ相伴フモノデアリマスカ此繁雜ナル人事ヲ圓滿ニシ其ノ義務ヲ強スルニハ成文ノ規制アリテ一見何人モ規律セル法ノ何タルヲ知ルニ易カラシムルニアルベシト想ヒマス編者ハ宮城縣稅ノ賦課及ビ徵收ノ事務ニ從事シ此ノ事務ヲ執リ常ニ已上ノ事務ヲ教示スルノ書ヲ希望シテ居リマシタガ更ニ見當リマセン夫レテ日頃書キ集メタ各種ノ應用的方面ノ事項ヲ綴リテ此ノ一小冊子ヲナシマスタ

案ヨリ杜撰ノモノデアリマスケレトモ幸ニ編者ト感ヲ等シクセララルル同士ニ多少參考トモナリ事務ノ處理ヲ易カラシムレバ編者ハ望外ノ歡デアリマス書中誤謬ノ點モ多クアリマシヨウガ是等ハ幸ニ讀者諸君ノ御指教ヲ得テ他日ノ訂正ヲ期シマス

大正丁巳葉月

編者識

大正  
9. 3. 12  
内交

凡例

一、本書ハ實務家ノ參考ニ資センコトヲ目的トシテ縣稅ニ關スル事項ヲ收錄セリ  
二、本書ハ左ノ通り分類編次セリ

- 第一編 地方稅規則
- 第二編 營業稅、雜種稅規則
- 第三編 府縣制
- 第四編 縣稅徵收ニ關スル件
- 第五編 縣稅檢査規則
- 第六編 手数料及延滯金
- 第七編 徵收期限
- 第八編 計 算
- 第九編 賦課通則
- 第十編 縣稅賦課規則
- 第十一編 同 細則
- 第十二編 縣稅納稅義務者届出規則

第十三編 課目課額

第十四編 縣稅徵收細則

第十五編 滯納處分(當分刊行セス)

第十六編 參考諸規則(當分刊行セス)

一、本書ハ每編ノ索引ニ就キ件名ヲ檢出スヘシ

一、本書ハ一種目ヲ緋ケハ關係事項ノ大要ヲ達見シ得ヘク條文毎ニ其ノ參考資料ヲ挿入シタリ故ニ數種目

ニ關係スル文書ハ其部分ヲ拔萃シテ反復之ヲ掲出セシモノアリ

一、本書ノ内容ハ關係法令訓令(本省分ヲモ含ム)通牒(照復回答)行政實例、各種判例及國稅ノ例又參考トシテ各條正

條毎ニ挿入掲載セリ

一、行政實例ハ主務省又ハ本廳ニ於テ現ニ疑義ヲ生シタル實例ニ付決シタル趣旨ノ概要ヲ掲ケタルモノナリ

一、本書第十編ハ正條及參考資料共同號文字ヲ以テ印刷セリ爲メニ檢覈ニ不便アルヲ以テ正條ニハ黑枠ニ

付シタリ之ニ印刷費ヲ節シタル意ナリ他之レニ準シタル編アリ讀者之ヲ諒セヨ

一、本書中條文ノ號數ニテ成ル部分ニハ( )ヲ付シ註釋參照ニ供セリ

一、本書條中改廢スヘキ字句ニシテ未タ改正ニ至ラサル個所ニハ【】ヲ付シタリ

一、本書ハ大正八年四月一日現行規則ヲ掲載セリ

以上

# 第一編 地方稅規則

目次

地方税規則.....一  
地方税規則備考ノ拔萃.....四  
府縣税家屋税ニ關スル件.....五  
府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件.....五  
府縣ニ於テ市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度.....六  
營業税雜種税規則第一條出書ノ件.....六  
地方税制限ニ關スル件.....六

目次

○地方稅規則

(明治十三年四月  
太政官布告第十六號)

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一、(地租三分ノ一以內)

一、營業稅並雜種稅

一、戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム(十五年第二號布告ヲ以テ制限ノ三字ヲ削ル)

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(十五年第二號布告ヲ以テ各項共改正)

一 警察費

一 警察廳舍建築修繕費

一 土木費

一 區町村土木補助費

一 府縣會議諸費

一 衛生及病院費

一 教育費

一 區町村教育補助費

第一編 地方稅規則

- 一 郡區廳舍建築修繕費
  - 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
  - 一 教育費
  - 一 浦役場及難破船諸費
  - 一 諸達書揭示諸費
  - 一 勸業費
  - 一 戶長以下給料旅費(十七年第一三號布)  
(告ヲ以テ本項改正)
  - 一 地方稅取扱費(府縣廳ニ屬スル爲替方給料爲)  
(替手數料現金運送等ノ費用)
  - 一 府縣廳舍建築修繕費
  - 一 府縣監獄費
  - 一 府縣監獄建築修繕費
  - 一 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス
  - 一 豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途)  
(十五年第六九號布)  
及豫算ノ臨時不足ニ充ル者  
(告ヲ以テ本項改正)
- 右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政  
府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一週年度トナシ府知事「縣令」ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ

經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年五月ヲ以テ「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十七年第二九號布)  
(布告ヲ以テ改正)

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六九號布)  
(以テ本項追加)

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十四年第五號布)  
(告ヲ以テ報告スヘシ)  
(ノ下其急務施云云ノ五十四字ヲ削ル)

前年度經費決算ノ場合ニ於テ己ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事「縣令」ハ府會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(十五年第六九號布)  
(告ヲ以テ本項追加)

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事「縣令」適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事「縣令」ハ一週年度間ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後「內務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十四年第五號布)  
(告ヲ以テ改正)

第八條 (十四年第五號布)  
(告ヲ以テ削除)

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事「縣令」ヨリ「內務卿」ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

第十條 (十三年第二六號布)  
(告ヲ以テ追加)  
(十四年第八號布)  
(告ヲ以テ削除)



○地方税規則備考ノ拔萃

(明治十三年大蔵省ニ於テ制定)

(但戸數割ニ關スル分)

- 一、戸數割ハ本籍寄留ト戸主非戸主ト問ハス毎戸現住者ニ賦課スルモノトス
- 一、凡ソ同居スルト否ラサルト問ハス竈ヲ異ニシ居ヲ占ムルモノハ皆一戸ノ定額ヲ賦課スヘキモノト雖トモ區町村會ニ於テ其貧富ニ應シ定額ニ差等ヲ立テ又ハ免除スル等適宜徴收スルハ苦カラス
- 一、貧困老幼又ハ獨立ニシテ病ニ罹リ親戚ナク或ハ之レアルモ同シク窮民ニシテ其救助ヲナスノ力ナク纔ニ隣保ノ扶養ヲ得テ飢渴ヲ免カル、者ノ類ハ府縣會ノ決議ヲ以テ本税ヲ免除スルコトヲ得
- 一、地所ニ係ル地方税ハ官有地ニハ都テ賦課スヘカラスト雖トモ戸數割税ハ現住者ニ賦課スヘキモノニ付明治七年第百二十號公布地所名稱區別中寺院大中小學校説教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ、如キモ現住者ノ在否ヲ以テ賦課ノ如何ヲ定メ官有民有ヲ以テ區別セサルモノトス
- 一、他管他郡ヨリ寄留スルモノ本税未納ニ付財産ヲ公賣スルハ戸主ト家族ヲ論セス其寄留地ニ所持スル物品ニ止リ若シ公賣ノ上不足ヲ生スルモ本籍ノ財産ニ及フヲ得ス
- 一、官舎ニ係ル戸數割ハ其借用人ヨリ之ヲ徴收ス
- 一、戸數割ハ財産ヲ指定セサルモノニ付其未納者ノ處分ニ當テハ土地家族ヲ除ク外他ノ財産(兩戸ヲ除キ疊障子板戸等異動スヘキモノ)ヲ公賣スルヲ得且其營業上必要ノ器械衣服炊具等民事身代限

リノ例ニ倣ヒ差除クヘシ

- 一、營業税又ハ雜種税ノ賦課ヲ受クル物品ハ戸數割未納ノ際ニ於テハ公賣スルヲ得サルモノトス
- 一、官有地第三種ノ地ヲ人民ノ願ニ依リテ貸渡ス時ハ貸渡中借人ヨリ町村ノ協議費ヲ出シ且家屋ヲ建築シ居住スルモノハ本税ヲ賦課スルヲ得

○府縣稅家屋稅ニ關スル件

(明治三十二年六月勅令第二七六號)

府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ其府縣ノ全部若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋ニ對シ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戸數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

○府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件

(明治三十二年六月勅令第三一六號)

第一條 府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲特ニ賦課徴收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得

前項ニ依リ分賦スヘキ費用ノ限度ハ内務大臣之ヲ定ム  
第一項分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前々年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅府縣稅ノ徴收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第二條 市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ヨリ徴收スヘキ

額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得

第三條 法律命令中別ニ規定アルモノヲ除ク外市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

附 則

第四條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○府縣ニ於テ市町村ニ分賦シ得ヘキ費用ノ限度 (明治三十六年六月 內務省令第二九號)

本年勅令第三百十六號第一條ニ依リ府縣ニ於テ市町村ニ分賦スルコトヲ得ヘキ費用ノ限度ハ當該年度ノ府縣稅既定豫算額ノ十分ノ一トス

○營業稅雜種稅規則第一條但書ノ件 (明治二十四年七月二十三日 縣 甲第六五號 內務書記官通牒)

地方稅營業稅雜種稅規則第一條但書ノ制限ハ府縣制實施後ニ於テモ從前ニ異ナルコトナシ

○地方稅制限ニ關スル件 (明治四十一年三月 法律第三十七號) (四十四年三月法 律三二號改正)

第一條 北海道、府縣、其他公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租附加稅又ハ反別割ヲ賦課スルノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス

一、北海道、府縣(沖繩縣ヲ除ク)沖繩縣ノ區及町村

附加稅ノミヲ課スルトキ

宅地地租 百分ノ十三

反別割ノミヲ課スルトキ

其他ノ土地地租百分ノ三十二

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ反別割ノ總額ハ其地目ノ地租額(宅地ニ在リテハ百分ノ十三

一段歩ニ付毎地目平均金四十錢

其ノ他ノ土地ニアツテハ百分ノ三十二)附加稅額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二、其他ノ公共團體

附加稅ノミヲ課スルトキ

宅地地租百分ノ九

其他ノ土地地租百分ノ二十一

段別割ノミヲ課スルトキ一段歩ニ付毎地目平均金四十錢附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ九、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ二十一ト附加額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス(四十四年三月法律三二號ヲ以テ本條改正)

第二條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ營業稅附加稅ヲ課スルノ外營業稅ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一、北海道、府縣

營業稅百分ノ十一

二、其他ノ公共團體

營業稅百分ノ十五

第一編 地方稅規則

第三條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス

一、北海道、府縣

所得稅百分ノ四

二、其ノ他ノ公共團體

所得稅百分ノ十五

第二種ノ所得ニ對シテハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

第四條 府縣費ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市稅制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限り府縣稅制限ニ達スル迄課稅スルコトヲ得

府縣費ノ一部ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ市町村ハ前三條ノ市町村稅制限ノ外其分賦金額以内ニ限り課稅スルコトヲ得 但府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ府縣稅ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以内ニ於テ課稅スルコトヲ得

左ニ掲クル場合ニ於テハ特ニ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

- 一 内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 二 非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ
- 三 水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各稅目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ達シタルトキニ限ル

前三項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス 但地租附加稅及段別割ヲ併課シタル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキハ附加稅カ制限ニ達シタルモノト見做ス其ノ段別割ノミヲ賦課スル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキ亦同シ

第六條 (削除)

第七條 本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附 則

本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中地租、營業稅及所得稅ノ地方稅制限ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二編

營業稅  
雜種稅  
規則

目次

營業稅雜種稅ノ種類及制限規則.....ろ一  
同第一條但書ノ件.....ろ三  
稅率増加ノ際取扱方ノ件.....ろ三  
特別稅ヲ新設シ又ハ増率ノ許可申請ヲ爲ストキ收支ニ關スル調書添付方ノ件.....ろ三  
代書人稅ニ關スル收支調ノ例.....ろ四  
木材川下稅ニ關スル收支調ノ例.....ろ四  
私法人使用建物稅ニ關スル收支調ノ例.....ろ五  
課目課額報告ノ件.....ろ六  
縣稅課目課額報告ノ件.....ろ六  
宮城縣々稅賦課規則ノ稅目中法定稅目特別設定稅目トノ區別調.....ろ七

○營業稅雜種稅ノ種類及制限

(明治十三年四月  
太政官布告第七號)

明治十一年<sup>十二</sup>第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ 但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス(十五年第三號布告ヲ以テ各項共改正)

商業

工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(十五年第三號布告ヲ以テ各項共改正)

料理屋、待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、飲食店ノ類

湯屋

理髮人

傭人受雇

遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、封間、藝妓ノ類

市場

演劇、其他興行、遊覽所

遊技場玉突、大弓、揚弓、射的、吹矢之類

人寄席

船 桴漁船、用船、及車馬車、人力車、荷積馬車、荷積大七、  
五十五石未満海船、八車、荷積中小車、荷積牛車ノ類  
但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セント  
スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (十五年第三號布) 告ヲ以テ刪除

第四條 府知事「縣令」ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事「縣令」ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ觀察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ  
(十五年第三號布告ヲ以テ決議ヲ以テノ下稅額云云ノ八字ヲ削ル)

第六條 (十五年第三號布) 告ヲ以テ刪除

第七條 (十五年第三號布) 告ヲ以テ刪除

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ

「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ (十五年第三號布告ヲ以テ第三條稅目ノ五) 字ヲ改メ課稅種類ノ四類ノ四字トナス

○同上規則第一條但書ノ件 (明治二十四年七月廿三日縣) 甲第六五號內務書記官通牒

地方稅營業稅雜稅規則第一條但書ノ制限ハ府縣制實施後ニ於テモ從前ニ異ナルコトナシ

○稅率增加ノ際取扱方ノ件 (明治三十六年三月十二日地甲第一) 二號主稅局長及地方局長ノ通牒

營業稅雜稅規則第九條ニ依リ設定シタル特別稅ニシテ其稅率ヲ增加セントスルトキハ自今內務、大藏兩  
大臣へ稟請シ其許可ヲ受ケラルヘキ義ト御承知相成度爲御心得依命此段及通牒候也

○特別稅ヲ新設シ又ハ增率ノ許可申請ヲ爲ストキ收支ニ  
關スル調書添付ノ件 (明治四十年三月往第三四三三號) 大藏省主稅局長內務省地方局長通牒

府縣市町村ニ於テ特別稅 (收入金ヲ課稅ノ標準トスルモノ法令ヲ以テ課率限度) ヲ新設シ又ハ增率ノ許可申請ヲ爲スト  
キハ別紙様式ニ準シ收支ニ關スル大体ノ調書添付様御取扱相成度此段及通牒候也

(別紙)

○代書人稅ニ關スル收支調ノ例

收支金 何程

委託文書一通平均手数料何程  
一ヶ年 何程ニ對スル分

第二編 營業稅雜稅規則

經費 何程

内

公 課 何程

公課以外ノ經費 何程

殘 何程

國稅何程、府縣稅何程、市町村稅何程

稅 率 一人(又ハ何々)ニ付何程

(備考)

納稅義務ヲ有スル者ノ中收入金最モ多キ者ヲ標準トスルコト  
經費ハ收入ヲ得ルニ必要ナル經費トス以下同シ  
案内業稅、仲仕稅、乳牛稅、賃駕籠稅、木流稅、筏業稅等之ニ準ス

○木材川下稅ニ關スル收支調ノ例

見積價格 何程

見積經費 何程

内

公 課 何程

木材ノ種類、尺ノ又ハ板ノ平均等材積  
ヲ課稅標準別ニ詳記スルコト

國稅何程、府縣稅何程、市町村稅何程

公課以外ノ經費 何程

殘 何程

稅 率 何々ニ付(標準)何程

(備考)

稅率ノ最高ノ木材又ハ板類等ニ付推定掲記スルモノトス

○私法人使用建物稅ニ關スル收支調ノ例

建物賃貸價格 何程

經費 何程

内

公 課 何程

公課以外ノ經費 何程

殘 何程

國稅何程 府縣稅何程 市町村稅何程

稅 率 建物一坪(又ハ何々)ニ付何程

(備考)

標準トナルヘキ法人ニ付調査スルモノトス  
經費ハ推定スルモノトス



製造場稅、店賃稅等之ニ準ス  
平均戸別割ニ關スル收支調ノ例

所得金 何程  
主費 何程  
殘 何程  
稅率 何程

(備考)

所得ノ最モ少ナキ者ニ就キ調査スルモノトス

平均戸數割等之ニ準ス

經費ニ付代書人稅ニ關スル調ノ備考ニ依ルヲ要セス

○課目課額報告ノ件

(明治四十年一月十二日往第三三九號)  
(主稅局長ヨリ本縣ニ通牒)

營業稅雜種稅規則第八條ニ依リ報告可有之課目課額從來報告セサル向有之候條爾今確定ノ上ハ直ニ御報告有之候様致度此段及通牒候也

○縣稅課目課額報告方ノ件

(明治四十年十二月十日)  
(主稅局長ヨリ本縣ニ通牒)

營業稅、雜種稅規則第八條ニ依リ御報告可相成課目課額ハ内藏兩大臣宛トシテ提出セラル、向モ有之候處整理ノ都合有之候ニ付來年度分ヨリ當省ニハ別ニ御報告相成候様致度此段及通牒候也

○宮城縣々稅賦課規則ノ稅目中法定稅目トノ區別調

地方稅規則ニ依ル	特別稅トシテ設定ノ	備	考
商業			
物品販賣業			
牛馬賣買業			
繭生糸屑物賣買業			
質屋業			
物品貸付業			
運送業			
請負業			
宿業			
兩替業			

飲食店業	湯屋業	理髮業	遊藝師匠	遊藝稼人	相撲	俳優	結間	藝妓	市場	演劇	興行	遊覽所

周旋業	仲立業	問屋業	代理業	信託業	藝妓置屋	工業	製造業	印刷業	寫真業	職工	雜種稅	料理店業

代書業	三十七年度實施
狩獵	四十四年一月地方主稅兩局長通牒、一、二等ハ本稅ニ付十三錢三等ハ十錢トシ、旨附加稅ノ制限アリ、三十四年度實施
貸金穀	三十年度實施大正四年度穀ニ對シ實施
貸家	四十一年度實施
動力使用	本稅ハ將來ハ廢止スヘキ旨四十年五月地方主稅兩局長ノ通知アリ、三十八年度實施
建物建築	四十年年度實施
劇場	
氷室	三十八年度實施
屠畜場	三十八年度實施
法人建物	三十四年度實施
牛	三十年度實施
馬	三十四年度實施
畜犬	四十年年度實施

遊技場	
人寄席	
船 <small>(解流船、川船、五十石未満海船)</small>	
馬車	
人力車	
荷積馬車	
荷積車	
牛車	
水車	
乘馬	
屠畜	
漁業	各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ政府ノ裁可ヲ受ケルヲ要ス
採藻	同

第三編 府 縣 制

自働車	二年度實施
自轉車	二十八年實施
電柱	三年度實施
財産取得	大正七年度ヨリ向フ五ケ年度間徵稅ノ許可アリ
炭竈	七年度實施
備人	八年度實施
倉庫	八年度實施

る一二(終)

一、營業稅雜種稅規則第九條ニ依リ設定ノ特別稅ノ稅率ヲ增加セントスルトキハ大藏、内務兩大臣ノ許可ヲ受クヘキ旨三十六年二月地方主稅兩局長ノ通牒アリ

一、營業稅雜種稅規則ノ法定稅目ノ稅率變更ニ就テハ許可ヲ要セス同則八條ニ依リ内務大藏兩大臣ニ報告ヲ以テ足レリ

目次

府縣制(財務)部 沿革……………は一  
 使用料課税方ノ件……………は二五  
 使用料ニ關スル件……………は二五  
 滞納處分費ノ件……………は二六  
 二府縣以上ニ涉ル營業場ニ課税方ノ件、  
 本稅納付地ト附加稅、市制沿革、府縣稅  
 及市町村ノ免除物件、教會所構内ニ建設  
 セル宗教授用ノ建物ト課稅、府縣會ト  
 課稅外者、空地空屋ナル官有ノ土地家屋  
 ト舊市制町村制第九十七條直接公用ニ供  
 セサル市町村有ノ土地家屋ト課稅、社寺  
 用ニ供スル民有地、一部又ハ個人ノ所有  
 地ヲ學校病院等ノ用ニ供シタル場合、官  
 舎ト家屋稅ノ賦課、直接宗教ノ用ニ供ス  
 ル建物、學術慈善用ノ建物、郡費分賦ノ  
 意義、减免ト或關係、免租地ト地租割、

目次

五

所謂特別ノ事情アル者、營業獎勵ノ爲メ  
 ニスル市町村稅ノ免除、特別ノ事情アル  
 者ノ意義、會計法第十九條但書ニ所謂特  
 別ノ法律ノ意義府縣稅ト夫役現品、府縣  
 稅賦課ニ關シ異議ノ申立、口頭異議申立  
 ノ効力、錯誤ノ賦課ト異議ノ失權、府縣  
 稅ノ賦課ニ關スル異議、納稅義務ニ負擔  
 セサル外人ノ訴願及訴訟能力、戶數割ニ  
 關スル訴願、賦課ニ關スル異議期間經過  
 後ノ行政廳ノ適宜還付、使用料手數料ノ  
 意義、夫役現品ノ賦課ト異議ノ申立、府  
 縣稅戶數割ノ賦課ト異議、歩合協定ト訴  
 願、三ヶ月ノ起算方、所謂特別ノ法律ノ  
 意義、私設鐵道用地收用ト免稅規定、同  
 業組合ノ性質、法人ノ種別、收入及貧富ノ  
 程度前年ヨリ低減ノ場合ハ市町村會ノ議

一

決ニテ等級ヲ昇セタル賦課、地租ノ免除、町村長ノ府縣稅ノ納稅傳令書ノ交付ト訴訟ノ相手方、異議申立ト期間經過後ト縣ニ到着、訴願期間ノ起算點、訴願ヲ受ケタル行政廳ト其ノ審査權、大臣ニ訴願シタル事件ト行政訴訟、公賣處分取消ノ訴求ト訴願、興行場ニ臨檢ノ場合ト日出没ノ規定、府縣ノ私法上ノ收入ニ屬スル物件ノ使用料ト滯納處分、學資辨償金ト滯納處分、府縣費用ニテ維持スル道路堤塘ト其ノ使用料ノ滯納處分、縣債券ノ署名ニ關スル件、會計法ノ時効ニ關スル件、納入延期ト歳入不足ヲ豫見シ得ル場合ノ追加豫算、府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項……………は四六

府縣制第二百五條郡制第二百三條ニ依ル費目流用並ニ財務ニ關スル件……………は四八

直接種類……………は五一

○府縣制

(明治三十二年三月 法律第六四號)

第一章 總則

第一條 府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス

第二條 府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ郡市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム 但特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ル 但東京市、京都市、大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム(大正三年法律三)  
議員ノ配當ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム(同上)  
議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス(同上)  
(追加)

第六條 村縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス  
家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタルモノハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中ノ年限ニ關スルモノハ府縣都市町村ノ廢置分合若ハ境界ノ變更ノ爲中斷セラル、コトナシ  
左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員

二 檢事警察官吏及收稅官吏

三 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師(大正三年法律三)  
(五號ヲ以テ改正)

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ  
選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ニ對シ請負ヲ爲ス者及其支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人ハ其ノ府縣ニ於テ被選舉權ヲ有セス(同上)

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス(大正三年法律三)  
(五號ヲ以テ改正)

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スルモノハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 府縣會議員中關員アルトキハ三箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ(同上)  
(條改正)  
補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ノ選舉人名簿二本ヲ調製シ其ノ

一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ合シ毎年十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第十二條 郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セザルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ据置クヘシ

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ヲ修正スルトキハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ本條ニ依リ郡市長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ告示シ郡長ハ本人住所地ノ町村長ニ通知シ

町村長ハ之ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス 但選舉人名簿ニ記載セラルヘキ確定裁決書

若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス 但名簿ハ之ヲ修正ス

ル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効トナリタルトキハ九月十五日

ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ 但名簿調製ノ期日マテニ選舉權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登錄スル限

ニ在ラス

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製シ又ハ之ヲ縦覽ニ供スヘシ(大正三年法律三五號ヲ以テ本項追加)

前二項名簿調製ノ期日縦覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル(同上)

府縣郡市町村ノ廢置分合境界變更ノ場合ニ於ケル名簿ノ分合ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(同上本項追加)

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ

行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得ザルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該選舉

區ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ少クモ七日前ニ之ヲ告示スヘシ(大正三年法律三五號ヲ以テ本項追加)

第十四條 府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理スヘシ



第十五條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル(同上本條改正)

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ得

投票所ハ市役所、町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス  
投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クとも五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ヲ適用シ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十六條 市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

第十七條 選舉人ニ非ル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ス 但投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限リニ在ラス(大正三年法律三五號ヲ以テ本條改正)

投票所ニ於テ演説討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得 但投票管理所ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經又ハ確定裁決書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スヘシ(同上本條改正)

投票時間内ニ投票所ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得(同上追加)

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉人名簿調製ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ仍選舉權ヲ有スルトキハ前住所ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第三十二條 第一項若ハ第三十六條ノ選舉又ハ補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ(同上本條追加)

第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ市町村長之ヲ定スヘシ

第二十條 市町村長ハ投票録ヲ製シ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條 投票ヲ終リタルトキハ町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票録ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日ヲテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條 選舉會ハ郡役所、市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ  
前項選舉會ノ場所ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ

第二十四條 郡長ハ各投票所ヨリ參會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任スヘシ  
選舉立會人ハ名譽職トス

第二十五條 郡市長ハ選舉長ト爲リ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選舉立會人立替ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉錄ニ記載スヘシ 但場合ニ依リ選舉會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ 但爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 現ニ府縣會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ (大正三年法律三五號ヲ以テ本號追加)

第二十八條 投票ノ効力ハ選舉立會人之ヲ議決シ可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十九條 府縣會議員ノ選舉ハ有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス 但其ノ選舉區ニ配當セラレタル議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム (同上本條改正)

第三十條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ効力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ (同上)

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選

者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ(同上)

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ府縣知事ニ申立ツヘシ  
一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ  
應スヘキカラ府縣知事ニ申出ツヘシ

前二項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲サ、ルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第三十二條 府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者  
ヲ以テ當選トス 但年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉  
長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム(大正三年法律三五號ヲ以テ本項改正)

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ  
以テ當選トス 但抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ附與シ及其ノ住所氏名ヲ告示  
スヘシ

第三十四條 選舉人選舉若ハ當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテ  
ハ前條告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事ニ於テ選舉若ハ當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ハラズ選舉ニ關シテハ  
第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項又ハ第三項ノ申立アリタル日ヨリ  
三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ(同上本項追加)

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上改正)

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選  
舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス(同上)

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第三十六條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ 但得票數ノ査定ニ錯誤アリタル  
爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル  
議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ  
於テハ第二十九條第一項但書ノ規定ヲ適用セス(同上本項追加)

第三十七條 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ  
除ク外其ノ被選舉權ノ有無ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス(同上本項改正)

府縣會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサ者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ 但議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

第三十四條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上本項追加)

府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムル時亦同シ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ事ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又ハ市トアルハ區、市役所トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村其ノ組合ノ管理者ハ之ヲ町村長ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス(大正三年法律三五號ヲ以テ本項改正)

第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歲入出豫算ヲ定ムル事
  - 二 決算報告ニ關スル事
  - 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手数料、府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
  - 四 不動産ノ處分並買取受讓受ニ關スル事
  - 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
  - 六 歲入出算算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
  - 七 財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事 但法律命令中別段ノ規定ヲアルモノハ此ノ限ニ在ラス
  - 八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項
- 第四十二條 府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得
- 第四十三條 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ
- 第四十四條 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得
- 第四十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
- 府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會召集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第四十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル(大正三年法律三  
五號ヲ以テ改正)

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム(同上本  
項追加)

第四十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ 但之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限り之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ 但其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條 府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ 但急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スル事ヲ得ス 但府縣會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得(大正三年法律三  
五號ヲ以テ改正)

第五十五條 法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外一名毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム(同上本  
條改正)

前項ノ場合ニ於テハ第十八條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

第一項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用ウルコトヲ得

第五十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス 但左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長若ハ議名三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定員ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會

議ヲ開カサルトキハ第四十八條ノ例ニ依ル(同上本項追加)

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレ

ハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス(同上)

第五十八條 府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止

シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ

退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ

從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムル

コトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ

注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長

及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ會議規則ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要

ス(大正三年法律三五號ヲ以テ改正)

會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル

規定ヲ設クルコトヲ得

### 第三章 府縣參事會

#### 第一款 組織及選舉

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員八十名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ七名トス(同上改正)

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命ス

第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十八條第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依リ選舉同時ナルトキハ得票數ニ依リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ニ俟ル仍關員アル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ每年之ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員ハ後任者就任ノ前日マテ在任ス府縣會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同シ(大正三年法律三五號ヲ以テ本條改正)

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限及處務規程

第六十八條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事

三 府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付キ府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事

四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事 但法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 府縣ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ檢查ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條 第四十四條、第四十五條、第四十九條、第五十一條第三項、第五十五條、第五十七條第一項及

第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス(大正三年法律三五號ヲ以テ改正)

第七十一條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條 府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議

ヲ開クコトヲ得

は三〇

第六十八條 第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス  
府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル  
會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス 但同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條  
第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第四項ノ順  
序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ  
其ノ闕員ヲ補充スヘシ(大正三年法律三  
五號ヲ以テ改正)  
議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章 府 縣 行 政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第七十六條 府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得  
委員ハ名譽職トス

委員ノ組織及任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款 府吏府縣官縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事 但特ニ之ヲ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 五 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
- 七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條 府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ若府縣參事會ト其ノ意見  
ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

第八十條 府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員  
ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得



府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セサルコトヲ得懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラル、コトヲ得ス

第八十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ(大正三年法律三五號ヲ以テ本項改正)

前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條 府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ 但場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條 府縣會若ハ府縣參事會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條、第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル(大正三年法律三五號ヲ以テ本項改正)

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本縣ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條 官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條 府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條 府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條 委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ受ケ財産若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査

シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條 府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三 款 給 料 及 給 與

第九十三條 有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條 府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經府縣知事之ヲ定ム(大正三年法律三五號ヲ以テ本項改正)

第九十五條 有給府縣吏員ノ退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム(同上改正)

第九十六條 退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得(同上)

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條 給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料、費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス(同上)

第 五 章 府 縣 ノ 財 務

第 一 款 財 產 營 造 物 及 府 縣 稅

第九十八條 府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百條 本法中別ニ規定アルモノヲ除外使用料手数料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料五圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得(大正三年法律三五號ヲ以テ本項改正)

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

○ 使用料課稅方ノ件 (明治三十二年十一月廿二日廳地第五號ノ內地方局長ノ通牒)

府縣ニ於テ港灣ヲ築造シ其港灣中ノ一方面ヘ特ニ棧橋ヲ設ケ又ハ船渠特別繫繫場ヲ設置シ若クハ海港ノ一施設トシテ軌道ヲ敷設シ貨物ノ揚卸ニ便スル場合ニ於テハ府縣制第九十九條ニ依リ船舶貨物ノ重量容積噸數又ハ人員等ヲ標準トシ使用料ヲ徵收スルヲ得ル旨鹿兒島縣問合セニ對シ回答致候間爲御參考此段及通牒候也

○ 使用ニ關スル件

郡カ修理ノ費用ヲ負擔スルモ其ノ道路ハ國ノ營造物ナルヲ以テ之カ使用料ハ郡制第八十六條ニ該當セサルモノニシテ明治二十四年訓第四六二號ヲ準用シ市町村ノ例ニ依リ及電氣事業法第九條ニ依リ使用料ヲ徵收スルヲ得ル義ナリ

第一百一條 府縣ハ其公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 府縣ハ其必要ナル費用及法律、勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

○ 滯納處分費ノ件

(明治三十七年十一月九日地甲) 第一八四號地方局長ヨリ通牒

島廳又ハ郡役所ニ於テ府縣稅其他府縣公法上ノ收入ノ滯納處分ニ要スル費用ハ總テ府縣ノ支辨ト爲シ府縣稅取扱費ヨリ支出シ之ニ對スル辨償金ハ府縣ノ雜收入ニ收入スルコトニ決定相成候間御心得此段及通牒候也

第三百三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル處ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第三百四條 府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第三百五條 三ヶ月以上府縣内ニ滞在スル者ハ其滞在ノ初メニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第三百六條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有

シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ

第三百七條 納稅者ノ府縣外ニ於テ使用シ占有スル土地家屋物件若クハ其ノ收入又ハ府縣外ニ於テ營業場ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在同時ニ府縣ノ内外ニ渉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シテ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第三百八條 府縣ノ内外ニ渉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對

シ關係府縣ニ於テ營業稅附加稅所得稅附加稅又ハ鑛產稅附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム若協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

鑛區又ハ砂鑛區カ府縣ノ内外ニ渉ル場合ニ於テハ鑛區稅又ハ砂鑛區稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

○ 二府縣以上ニ渉ル營業場ニ課稅方ノ件

(明治三十二年九月十五日地) 甲第九一號地方局長通牒

二府縣以上ニ渉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シテ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其歩合ヲ定ムル義ニ有之候ニ付右等ノ條件ニ對シ府縣稅ヲ賦課セントスルトキハ便宜本店所在地府縣ニ於テ提案シ關係府縣ト協議ヲ取纏メ「内務、大藏大臣ノ許可ヲ稟申」(現行法ハ改正ノ爲メ死文トナリ)相成候様致度此段及通牒候也

○ 判例

(本稅納付地ト附加稅)

他ノ法令ノ規定ナキ以上本稅納付地ニ非サレハ附加稅ヲ賦課シ得サルモノト謂フヲ得ス(明治三七、四、六判例)

第三百九條 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲サルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第一百十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク

外市町村税ノ例ニ依ル

二二八

○市制 抜 萃 (町村制モ同文トス)

(註)第二百一十一條 所得税法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得  
神社、寺院、祠宇、佛堂ノ用ニ供スル建物及其境内地並教會所、説教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市税ヲ賦  
課スルコトヲ得ス 但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所、説教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此限ニ在ラ  
ズ

國府縣市町村其他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス 但シ有料ニテ之  
ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニアラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス  
前四項ノ外市税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

○實例

(府縣稅及市町村稅ノ免除物件)

市町村制第九十七條第一項第二號ノ社寺トアル中ニハ嚴格ニ解釋スルトキハ神佛二教以外ノ宗教ヲ包含セスト雖モ立法ノ精神ヲ廣ク  
一般ノ宗教ノ用ニ供スル土地家屋等ヲ指示スルモノナルコト毫モ疑ヲ容レズ故ニ神佛二教以外ノ宗教ニ於テ或ハ教會堂ト云ヒ或ハ聖  
堂ト云ヒ或ハ説教所ト云ヒ或ハ講義所ト云ヒ其ノ付スル所ノ名稱ヲ區々ニシ其ノ使用スル形式亦異レルモノアリト雖モ明治三十二年  
內務省令第四十一號ニ依リ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケテ專ラ宗教直接ノ用ニ供スルモノハ總テ免除スヘキモノトス神佛二教ノ説教所及  
講義所ノ類亦同シ

(教會所構内ニ建設セル宗教教授用ノ建物ト課稅)

教會所ノ構内ニ建設セル宗教教授用ノ建物ニ對シテハ課稅スルヲ得ス又教會所ノ構内ニ在リテ其ノ主監宣教師又ハ番人等ヲ居住セシ  
メ居ル建物ノ如キハ教會所ノ一部又ハ附屬舎ニシテ教會所用ニ供スル建物ナレハ宣教師ノ住宅ニ關シテモ亦課稅スルコトヲ得サル  
モノトス

(府縣會ト課稅外者)

府縣會ノ議決ヲ經テ赤貧者又ハ考幼廢疾者ヲ課稅部外ニ置キ之ニ府縣稅ヲ賦課セサルコトト爲スハ本條ノ範圍外ニ屬シ法理上妨ケナ  
シトス

(空地空屋ナル官有ノ土地家屋ト舊市制町村制第九十七條)

空地空屋ナル官有ノ土地家屋又ハ收益ノ目的ニアラスシテ貸與シタル官有ノ土地建物ハ舊市町村制第九十七條第一項第一號ニ該當ス  
ルモノトス

(直接公用ニ供セサル市町村有ノ土地家屋ト課稅)

直接公用ニ供セサル市町村有ノ土地家屋カ自己市町村内ニ存在スル場合ニ於テハ之ニ對シ課稅スヘキモノニアラス

(社寺用ニ供スル民有地)

民有地第一種ニ屬スルモ社寺ノ用ニ供スル土地ハ免稅スヘキモノトス

(一部又ハ個人ノ所有地ヲ學校病院等ノ用ニ供シタル場合)

市町村内ノ一部若クハ一個人ノ所有ニ係ル土地ヲ直接公立學校病院等ノ用ニ供シ借地料ヲ受ケサルニ於テハ市町村稅ヲ賦課スルヲ得  
ズ

（官舎ト家屋税ノ賦課）

官舎ニ對シ家屋税ヲ賦課スルヲ得ス尤モ官舎ニ住居スル者ニ對シ賦課スルハ妨ケナシ

（直接宗教ノ用ニ供スル建物）

基督教ノ教會堂、聖堂、説教所、講義所等ニシテ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケ専ラ宗教直接ノ用ニ供スル建物ニハ市町村税ヲ課スルヲ得ス神佛ニ對シ講義所等ノ建物ニ付テモ亦右ト同シテ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケ宗教ノ用ニ供スルモノニハ市町村税ヲ賦課スルヲ得ス但シ何レノ建物ニアリテモ其ノ建物カ有料借入ニ係ルトキハ其ノ貸主ニ對シ課税スルハ妨ケナシ

（學術慈善用建物）

私立學校圖書館慈善院等ノ建物ニ對シテハ市町村税ヲ課スルヲ妨ケス

第百十一條 府縣内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十二條 府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ府縣内一部ノ市町村其ノ他公共團體若クハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得 但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス 夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ 夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

○實例

（所謂郡費分賦ノ意義）

郡制第九十三條ニ所謂郡費分賦トアル中ニハ行政裁判所ノ判決ニ依レハ郡費トアル中ニハ夫役現品ノ賦課ヲ包含ストノ趣キナルモ行政實例ニ依レハ夫役現品ノ賦課ハ包含セザルモノトス

第百十三條 府縣税ノ减免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

○實例

（减免ト或關係）

府縣税ノ减免若ハ納稅延期ハ納稅ノ義務ヲ盡スコト能ハサル特別事情ノ有スル輕重ニ從ヒ與フヘキモノニテ或產物ノ保護又ハ發達ヲ期シ殊ニ課税ヲ减免スルカ如キハ本條ノ範圍外ニ屬ス但營業稅雜種稅ニ在テハ同規則第四條ニ依リ適宜取捨スルコトヲ妨ケス

（免租地ト地租割）

地租ヲ免除セラレタル土地ニ對シテハ當然地租割ヲ賦課スルコトヲ得サルニ依リ本條ニ依リ免租ヲ爲スノ限ニアラス

（所謂特別ノ事情アル者）

住家ノ火災ニ罹カリ又ハ水害ノ爲メ土地ヲ荒廢ニ歸シタルノ一時ヲ以テ本條ノ所謂特別ノ事情アル者ニ該當スト云フヲ得ス

（營業獎勵ノ爲メニスル市町村税ノ免除）

營業獎勵上必要ナリトシテ其ノ營業ニ係ル府縣税ヲ免除スルハ然ルヘカラス

（特別ノ事情アル者ノ意義）

特別ノ事情アル者ニハ特別事情ノ其ノ人ニ存スルモノニシテ無資力ナル者ト同様ノ意義ト解ス可キモノトス從テ例ハ大地主ノ如キ者ニアリテハ假令水害ニ遭遇シ收穫皆無ト爲ルカ如キコトアルモ本條ヲ適用シ府縣稅ノ延期ヲ爲スヲ得サルモノトス

○判例

(會計法第十九條但書ニ所謂特別ノ法律ノ意義)

會計法第十九條但書ニ所謂特別ノ法律トハ同法以外ノ一切ノ法律ヲ指稱セサルモノトス(明四二年ノ九六三頁)

第一百四條 市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舎建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

第一百五條 府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若クハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三ヶ月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三ヶ月以内ニ縣府知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料及手数料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

○實例

(府縣稅ト夫役現品)

府縣制第一百五條ノ府縣稅トアル中ニハ夫役現品ヲ包含セサルモノトス

(府縣稅賦課ニ關シ異議ノ申立)

府縣稅ノ賦課ニ關シ納稅義務者ニ於テハ府縣制第一百五條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル人ハ其ノ賦課ニ違法若ハ錯誤アリト認ムル場合ニ限ルモノナルヘク隨テ賦課方違法ニアラス又錯誤ニモアラスシテ單ニ町村會ノ定メタル賦課額ヲ不當トスルモノ、如キハ固ヨリ本條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキ限ニアラス

(口頭ニテ異議申立ノ効力)

市制第三十六條町村制第三十三條ノ下參照

(錯誤ノ賦課ト異議ノ失權)

府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者徵稅令書ノ交付後三ヶ月ヲ經過シ賦課ニ錯誤アリタルコトヲ發見スルモ最早本條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ關係者ニ於テ知事郡長ニ其ノ還付ヲ請願スルハ別ニ差支ナク知事郡長モ亦其ノ錯誤アリタルコトヲ自覺シタルトキハ之カ還付ヲ爲スハ固ヨリ妨ケナキコトナリトス

(府縣稅ノ賦課ニ關スル異議)

府縣稅ノ賦課ニ關シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルハ賦課ニ違法アリト認ムルカ又ハ錯誤アリト認ムル場合ニ限ル故ニ府縣稅ヲ苛重ナリトシ賦課ノ輕減ヲ請フカ如キハ異議トシテ之ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

(納稅義務ヲ負擔セサル外人ノ訴願及ヒ訴訟能力)

府縣稅ノ賦課ニ關シテハ納稅ノ義務ヲ負擔セル外國人モ亦訴願及ヒ訴訟ノ能力アルモノトス

(戶別割ニ關スル訴願)

戸別割ニ關スル訴願ハ税則ニ背キ若ハ課率ニ誤リテ賦課スルカ如キ場合ニ提起スルヲ得ルモノニシテ等級ニ關シテハ特別税ト雖モ訴願スルコトヲ得サルモノトス

(賦課ニ關スル異議期間經過後ニ於ケル行政廳ノ適宜還付)

府縣稅ノ賦課ニ關スル異議ハ令書ノ交付後三ヶ月以内ニアラサレハ之レカ申立ヲ爲スヲ得サルヘキニ依リ納稅者ニ於テ右三ヶ月以後ニ於テ賦課ニ錯誤アリシコトヲ發見スルモ異議ノ申立ヲ爲スヲ得サルヘキハ勿論ナリト雖モ賦課ヲ爲シタル行政廳ニ於テ賦課ニ錯誤アルコトヲ發見シタルトキハ假ヒ三ヶ月ノ期間ヲ經過スルモ納稅者ニ對シ適宜還付スルコトハ別ニ差支ナキモノトス

(府縣制第十五條第四項ニ所謂使用料手数料ノ意義)

府縣制第十五條第四項ニ所謂使用料手数料ニハ府縣ニ於テ徵收スル使用料手数料ノ總テヲ指稱スルモノニアラスシテ只同制第九十九條ノ使用料及手数料ノミヲ指シタルモノトス

(夫役現品ノ賦課ニ關シテハ異議ノ申立ヲ許サス)

夫役現品ノ賦課ハ郡制第九十三條第二項ノ郡費ノ分賦課トアル中ニ包含セサルカ故ニ假ヒ其ノ賦課ニ違法若ハ錯誤アリト認ムル場合ト雖モ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

(府縣稅戶數割ノ賦課ト異議)

府縣稅戶數割ノ賦課ニ關シ國稅又ハ建物坪數等ヲ標準トシ等級ヲ定メタル場合ニ於テ右ノ標準ト事實トノ間ニ誤謬ヲ受ケタルモノハ賦課ノ錯誤トシテ府縣制第十五條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ルト雖市町村會カ何等ノ標準ヲ設ケスシテ等級ヲ定メタル場合ニ於テハ其課額カ如何ニ相當ナルモ賦課ノ錯誤ト云フヲ得サルニ付此場合ニ於テハ異議ノ申立ニ依リ之カ修正ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

(訴願) 歩合協定ト訴願

新願法第一條第一號租稅ノ賦課ニ關スル事件ニ付訴願ヲ提起シ得ル者ハ租稅ノ賦課ヲ受ケタル者ナラサルヘカラス從テ所得稅附加稅賦課歩合協定ニ關シ市町村長ノ協議整ハサルニ對シ知事ノ爲シタル歩合決定ヲ不當トスル事件ニ付歩合決定ノ關係村長ヨリ訴願ヲ提起スルヲ得ス

○判例

(三ヶ月ノ起算)

本條第一項ニ所謂三ヶ月トハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル期日ヨリ起算スヘキモノトス(明二九、五、二六判決)

(私設鐵道用地收用ト免稅規定)

私設鐵道用地ノ收用ニ付町村制其他法律勅令中此ノ種ノ租稅ヲ免除スルノ規定ナシ(明三〇、六、三〇判決)

(同業組合ノ性質)

同業組合ハ同業者ノ共同利益ヲ增進シ弊害ヲ矯正スルノ目的ヲ有スルモノ何等公ノ權力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ之ヲ公共團體ナリト謂フヲ得ス(大二、六、三〇判決)

(法人ノ種別)

農會ハ私法人ニシテ公法人ニアラス

(收入及貧富ノ程度前年度ヨリ低減セル場合ト町村會ノ議決ニヨリ等級ヲ昇セタル賦課)

府縣會ノ議決ヲ以テ戶數割ノ賦課方法ハ毎年市町村會ニ於テ議決スヘキモノト定メタル以上ハ縱令納稅者ノ收入及貧富ノ程度前年度ヨリ低減セル場合ト雖モ其年度ニ於テ町村會カ新ニ議決セル賦課方法ニ依リ等級ヲ昇セ賦課額ヲ増加セル點ノミヲ以テ其賦課額相當ナラスト云フヲ得ス(大三、一〇、一九判決)

(地租ノ免除)

一ヶ年敷作アル地ニシテ其ノ一作ノ皆無ニ歸シタル場合ノ如キハ明治三十四年法律第二十七號ヲ適用スヘキモノニ非ス(三七六、二二判決)

(同上)

町村長ノ府縣稅徵收ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏吏員ノ徵稅令書ニ基クモノトスルモ徵稅令書ノ交付ニ因リ賦課處分ヲ爲ス者ハ町村長ニ外ナラサレハ町村長ハ該處分ノ取消訴訟ニ於ケル對手タル責ヲ免レサルモノトス(明四四、九、一四判決)(明四四、一〇、二一判決)

(町村長ノ府縣稅納人ニ對シ納稅傳令書ノ交付ト訴訟ノ相手方)

町村長カ府縣稅納人ニ對シ徵稅傳令書ヲ交付シタル以上縱令府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏吏員ノ發セシ徵稅令書ニ基キ之ヲ爲シタルモノトスルモ該處分ノ取消ヲ求ムル訴訟ニ於テ對手人タルノ責ヲ免ルルコトヲ得ス(明四三、三、二二判決)(明四三、三、一〇判決)

(異議申立ト期間經過後ト縣廳ニ到着)

府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者カ法定ノ期間内ニ異議申立書ヲ村役場ニ提出シタルモ其ノ縣廳ニ到達セル時日カ該期間經過ナルトキハ知事ニ於テ之ヲ却下スルモ不當ニアラス(明四三、二、一七判決)

(訴訟期間ノ起算點)

府縣制第二十八條第一項ノ訴訟期間特別規定アル場合ヲ除ク外告知書交付ノ翌日又ハ告知ナキ場合ニ於テハ該處分者カ處分アリタル事實ヲ知了セシ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(明四五、三、二九判決)

(訴訟ヲ受ケタル行政廳ト其ノ審査權)

訴訟ヲ受ケタル行政廳ハ其ノ處分ノ當否ヲ審査シ法律上ノ手續ニ違背シタリト認ムルトキハ勿論公益ニ反シ若ハ其ノ理由ニ因リ不當ト認ムヘキトキハ之ヲ取消シ得ルノ權能アルモノトス(明四四、一、二二判決)

(大臣ニ訴願シタル事件ハ行政訴訟)

各省大臣ニ訴願シタル事件ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(明四四、一、一〇判決)

(公賣處分取消ノ訴求ト訴願)

町村長カ租稅滯納處分トシテ滯納者ノ不動産ヲ差押ヘ公賣ニ付シタルヲ不當トシ其ノ公賣處分ノ取消ヲ訴求スルニハ先ツ地方上級行政廳ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經サルヘカラス(明四一、二、一八判決)(明四四、一、二一判決)

第一百十六條 府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒マテノ間營業者ニ關シ

テハ仍其營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅使用料手數料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

前項徵收金ノ先取特權ノ順位ハ國ノ徵收金ニ次クモノトス

府縣ノ收入金及支拂金ニ關スル時効ハ其ノ年度經過後五年ヲ以テ完成ス 但シ府縣債ニ付テハ國債ノ例ニ依ル

第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決



又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏又ハ市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
第二項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

○實例

(興業場ニ臨檢ノ場合ト日出日没云云ノ規定)

興業場ノ如キハ府縣制第十六條第一項ニ依リ日出日没ノ間ニ止ラス仍其ノ營業時間中ハ何時ニテモ家宅臨檢ヲ爲シ且其帳簿物件等ノ検査ヲ爲スコトヲ妨ケス

(府縣ノ私法上ノ收入ニ屬スル物件ノ使用料ト滯納處分)

府縣制第十六條ニ其ノ他府縣ノ收入トアルハ府縣ノ公法上ノ收入ヲ云ヘルモノニシテ地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷等ハ使用料ニシテ其性質私法上ノ收入ニ外ナラサルモノハ右ニ所謂其ノ他府縣ノ收入中ニ包含セラルヘキニ依リ之カ滯納者ニ對シテハ滯納處分ヲ爲スヲ得サルモノトス

(府縣ニ於ケル學資辨償金ト滯納處分)

府縣立師範學校ニ於ケル中途退學ノ生徒又ハ卒業後一定ノ義務年限ヲ經過セスシテ其ノ職ヲ退キタル小學教員ヨリ徵收スヘキ學費辨償金ハ其ノ性質公法上ノ收入ニアラサルヲ以テ之カ徵收ニ關シテハ府縣制第十六條ヲ適用シ國稅滯納處分ノ例ニ依ルコトヲ得サルモノトス

(府縣ノ費用ヲ以テ維持スル道路堤塘ト其使用料ノ滯納處分)

府縣ノ費用ヲ以テ維持經營セル道路堤塘ハ府縣制ノ所謂營造物ニアラス從テ其ノ使用料モ亦府縣制ニ所謂使用料ニ屬セスト雖モ其ノ使用料ハ府縣ノ公法上ノ收入ニ屬スルヲ以テ府縣制第十六條第二項ヲ適用シ滯納處分ニ依リ之カ徵收ヲ爲シ得ルモノトス

第十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變ノ爲メ必要アル場合ニ限り府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歲入出豫算及決算

第一百八條 府縣知事ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

○通牒

縣債券ノ署名ニ關スル件 (明治三十五年十月廿七日地發第一)

(五九號地方局長ヨリ本縣ニ通牒)

府縣債募集ノ爲メ債券ヲ發行スル場合ニ於テ豫メ用紙面ニ知事ノ官氏名ヲ印刷セル向モ有之候處右ハ代表者ノ署名ヲ必要トスルトキハ官名ノミヲ署スルニ止メ不苦候條御參考迄此段及通牒候也

○判例

○會計法ノ時効ニ關スル件。

會計法第十九條本文ノ規定ハ五ヶ年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ永久ニ義務ヲ免レルモノトセルニアラサシテ告知ニ基キ納ムヘキ時期ノ經過後五ヶ年内ニ於テ更ニ告知ヲ受ケザルトキハ其義務ヲ免カレシムル注意ニシテ同但書ノ規定ハ時効ノ期間ノミ特別法律ノ定ムル所ニ依ラシムル旨趣ナリトス(六年三月八日民事部決定)

(納入延期並ニ歳入不足ヲ豫見シ得ヘキ場合ニ於ケル追加豫算)

各個ノ納稅義務者ニ對シ年度ヲ超エテ市稅ノ納入延期ヲ許可スルニハ本條一項ニ依リ市町村會ノ議決ヲ經サレハカラス(市町村)ノ歳入不足ヲ豫見シ得ヘキ場合ニ於テハ年度經過前豫算ノ額ヲ推算シ之ニ對スル收入豫算ヲ編製スヘキモノトス從テ本條ニ規定セル(市町村會)ノ議決前其ノ追加豫算ヲ議決スルハ不法ニアラス(明治四〇、一〇、二八判決)

第百十九條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條 府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ

支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百二十一條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ 但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百二十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異

ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十五條 豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第百二十六條 府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正三年法律三五號ヲ以テ本條改正)

第五章ノ二 府縣組合 (同上本) (章追加)

第百二十六條ノ二 府縣ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣組合ヲ設クルコトヲ得

府縣組合ハ法人トス

第百二十六條ノ三 府縣組合ノ規約ニハ其ノ名稱組合ヲ組織スル府縣組合ノ共同事務組合會ノ組織事務ノ管理費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

府縣組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル府縣知事之ヲ管理ス

第百二十六條ノ四 府縣組合ノ組合府縣數ヲ増減シ共同事務ノ變更ヲ爲シ其ノ他規約ヲ變更セムトスルト

キ又ハ府縣組合ヲ解カムトスルトキハ關係府縣ノ協議ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財産處分ヲ要スルトキハ其ノ財産處分ニ付亦同シ

第百二十六條ノ五 前三條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第二百二十六條ノ六 公益上必要アル場合ニ於テハ内務大臣ハ關係アル府縣會ノ意見ヲ徵シ府縣組合ヲ設ケ若ハ之ヲ解キ組合同規約ヲ定メ若ハ之ヲ變更シ又ハ財產處分ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第二百二十六條ノ七 府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス 但府縣組合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スヘキ事項ハ組合事務ヲ管理スル府縣知事之ヲ行フ

第六章 府縣行政ノ監督

第二百二十七條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第二百二十八條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ 但本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ 決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ 異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セズ 但行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得(大正三年法律三五號ヲ以テ本條改正)

第二百二十九條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ内務

大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

内務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第二百三十條 内務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第二百三十一條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得 府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ 解散後始メテ府縣會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス内務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第二百三十二條 府縣吏員ノ服務規律ハ内務大臣之ヲ定ム

第二百三十三條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事
- 二 使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 (大正三年法律三五號ヲ以テ本號刪除)
- 四 不動産ノ處分ニ關スル事
- 五 (同上)

六 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

第三百二十四條 府縣債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ  
 內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ 但第百十七條第三項ノ借入金ハ此ノ限リニ在ラス(同上)  
 第三百三十五條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反  
 セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得  
 第三百三十六條 府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ  
 許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章 附 則

第三百二十七條 此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一  
 日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム  
 第三百三十八條 島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得  
 町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル  
 沖繩縣ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得(明治四十一年法律  
 二號ヲ以テ改正)  
 第三百三十九條 法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島司ヲ置ケル島  
 嶼ニ於テハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行  
 フ

第三百二十九條ノ二 第四十九條及第七十六條ノ規定ニ依ル府縣知事ノ職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監亦  
 之ヲ行フ(大正三年法律三五  
 號ヲ以テ本條追加)

第四百十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム  
 特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡  
 部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四百十一條 明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ  
 變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ効力ヲ有ス

第四百十二條 明治二十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル府縣會議員府縣參事會員  
 ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府  
 縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第四百十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ  
 成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第四百十四條 此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ第九條乃至第十二條  
 ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得 但其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定  
 ノ日マテ其ノ効力ヲ有ス

第四百四十五條 此ノ法律ニ定ムル直接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス  
 第四百四十六條 明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律  
 第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失  
 フ

第四百四十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (大正三年三月法律第三十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

名譽職參事會員及其ノ補充員ノ任期ニ關シテハ次ノ總選舉マテ仍從前ノ規定ニ依ル

○府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項(大正元年十一月勅令第四九號)

- 左ニ掲クル事項ハ府縣ニ在リテハ主務大臣ノ許可ヲ要セス郡ニ在リテハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員數ニ關スル事
  - 二 府縣會傍聽人取締規則ニ關スル事
  - 三 府縣會議員、府縣名譽職參事會員其ノ他府縣名譽職員ノ費用辨償額及其ノ支給方法ニ關スル事
  - 四 有給府縣吏員又ハ有給郡吏員ノ退職料、退職給與金、遺族扶助料及其ノ支給方法ニ關スル事
  - 五 國ニ對スル府縣ノ寄附ニ關スル事

- 六 府縣ノ教育、勸業、土木、衛生若ハ慈善ノ事業ニ對スル補助又ハ其ノ府縣ニ於テ許可ヲ受ケタルモノト同種類ノ補助ニ關スル事
- 七 警察費國庫下渡金、傳染病豫防費國庫下渡金、癩豫防費國庫下渡金又ハ感化院費國庫下渡金ニ對スル府縣支出金額ニ關スル事
- 八 府縣ノ特別會計ニ關スル事
- 九 支出總額十五萬圓以內ノ府縣繼續費ニ關スル事
- 十 豫定價格一萬圓未滿ノ府縣有不動産處分ニ關スル事
- 十一 元本總額十萬圓ニ達スル迄ノ府縣債又ハ元本總額二千圓ニ達スル迄ノ郡債ニ關スル事
- 十二 府縣郡ニ於ケル公會堂、病院、試驗場、物產陳列場、種畜場、蠶種貯藏庫、公園、教員養成所、產婆看護婦養成所、種畜ノ使用料及試驗、分析、鑑定、圖案、設計、畜類血統證明、患畜診察手術其ノ他之ニ類スルモノノ使用料又ハ手数料ニ關スル事
- 十三 府縣ニ於ケル前項ノ使用料又ハ手数料ノ細則ニ關スル事
- 十四 府縣制第八條ノ場合ニ於テ關係府縣知事ノ協議一致シタル營業稅附加稅ノ步合ニ關スル事
- 十五 府縣ノ夫役現品ノ賦課ニ關スル事
- 十六 郡費ノ特別分賦方法ニ關スル事

附 則

本令ハ大正元年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十二年勅令第三百十五號ハ之ヲ廢止ス

○府縣制第二百二十五條郡制第二百三條ニ依ル費目流用

竝財務ニ關スル件

(明治三十三年三月  
內務省令第七號)

- 第一條 府縣稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ
- 第二條 各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得ス
- 第三條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スヘシ
- 第四條 歲入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歲入ヨリ仕拂フヘシ  
歲出ノ誤拂過渡トナリタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂、繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ
- 第五條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歲入歲出ト爲スヘシ
- 第四條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ
- 第六條 繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得
- 第七條 毎年度歲入歲出金ヲ出納スルハ翌年度六月三十日限リトス(大正元年十一月  
省令一號ヲ以テ改正)
- 第八條 府縣ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後四箇月以内ニ完整スヘシ(同上)

第九條 歲入歲出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第十條 歲入歲出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第十一條 特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十二條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 府縣ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルヲ要スルモノハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員其ノ他職員ニ於テ之ヲ發ス

第十四條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルトヲ得 但機密費ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十六條 會計年度經過後ニ至リ歲入ニ不足ヲ生シ歲出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歲入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十七條 府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ府縣知事ニ於テ検査員ヲ命シ少クトモ毎年一回之ヲ検査セシムヘシ

府縣出納吏解職セラレタルトキハ府縣知事ハ検査員ヲシテ現金及帳簿ヲ検査セシムヘシ

第十八條 府縣ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲府縣金庫ヲ置ク

第十九條 府縣金庫ハ府縣本金庫府縣支金庫トス

府縣本金庫ハ府縣廳所在地ニ之ヲ置キ府縣支金庫ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク  
府縣本金庫ハ府縣支金庫ヲ總轄ス

第二十條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ府縣知事之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ許可ヲ得其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務  
ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第二十二條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ擔保ヲ提出スヘシ(四十五年六月省令  
第一號ヲ以テ改正)

第二十二條ノ二 府縣知事ハ當該年度ノ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ  
爲ス者ニ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ府縣ニ納付スヘシ(四十  
五月省令第六號  
ヲ以テ本項追加)

第二十三條 府縣知事ハ府縣金庫ヲ監督シ検査員ヲシテ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ検査セシメ又必要ト認ム  
ルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス 但本令ノ規定ニシテ適用シ難キモノハ内  
務大臣ノ認可ヲ得テ當分其ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

第二十六條 郡ノ財務ニ關スル規定ハ本令ニ準シ府縣知事之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十五年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス(大正元年十一月省令  
第一一號ヲ以テ追加)

○直 稅 種 類 (明治三十二年六月  
內務省告示第六九號)

本年法律第六十四號府縣制第四百五十五條本年法律第六十五號郡制第二百二十七條直接稅ノ種類左ノ如シ(三十  
二年

內務省告示第七四號  
第九七號ヲ以テ追加)

國 稅

地 租 所得稅(所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中  
無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク)

營業稅 鑛業稅(三十九年告示第六  
八號ヲ以テ追加) 砂鑛區稅(四十五年五月告示第  
四二號ヲ以テ追加) 賣藥營業稅(四十四年告示第  
二二號ヲ以テ追加)

取引所營業稅(大正三年告示  
第八〇號追加)

府 縣 稅

戶數割 家業稅 營業稅 雜種稅 直接國稅附加稅(四十四年告示第二  
二號ヲ以テ改正)

第四編 檢查規則



目次

縣稅檢査規則.....一  
縣稅檢査ニ關スル件.....二  
縣稅檢査書謄本處理ニ關スル件.....三  
縣稅通脫稅者處理方ニ關スル件.....三  
縣稅檢査書樣式.....三  
船車檢査ノ件.....五  
船車檢査手續.....六  
船車檢査成績報告樣式.....七  
課稅取扱方ノ件.....七  
船車檢査ニ關スル件.....九

○縣稅檢查規則

(明治三十七年四月十日  
九日縣令第十八號)

第一條 縣稅ノ賦課ニ關シ縣ノ官吏又ハ吏員ヲシテ檢查ヲ行ハシムルトキハ此ノ規則ニ依ル

第二條 檢查ヲ行フヘキ事項ノ概要左ノ如シ

- 一 戶數割納稅義務者
- 二 諸營業者ノ業別及課稅標準
- 三 物件又ハ行爲ノ種別及課稅標準
- 四 賦課ニ關スル規則ニ違背者ノ有無
- 五 前各號ノ外必要ト認ムル事項

第三條 縣稅檢查ヲ行フトキハ納稅義務者ノ家宅營業場其他實地ニ就キ行爲物件帳簿書類其他必要ト認ム

ル事項ヲ檢查スヘシ

前項ノ檢查ヲ行ハントスルトキハ左ノ證票ヲ示スヘシ

用紙厚質白紙 (縱四寸横二寸五分)

表

縣稅檢查證

縣印

裏

官職氏名

第四條 検査ヲ行フトキハ本人(法人ハ其代表者)ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ若シ本人事故アルトキハ家族又ハ其他ノ者ヲシテ立會ハシムルコトヲ得検査ニ際シ必要アルトキハ郡市町村ノ官吏吏員又ハ警察官吏ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第五條 検査ノ結果納税義務者届出規則ニ依ル届出ヲ爲サヌ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者其他縣稅ノ通脱ニ係ルモノヲ發見シタルトキハ縣稅検査書ヲ作成シ之ヲ讀ミ聞カセ且承印セシメタル後其正本ヲ交付スヘシ

縣稅検査書ニハ其事由及課稅標準納稅義務者並立會人ノ住居所氏名其他必要ノ事項ヲ記載スヘシ  
第六條 正當ノ理由ナクシテ検査又ハ立會ヲ拒ミタル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス  
第七條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○縣稅検査ニ關スル件

(明治三十七年四月十日) (大正八年七月訓令) (九日訓令第三十號) (甲第二十二號改正)

一 縣稅検査規則第五條ニ依リ縣稅検査書ヲ作製シ其正本ヲ交付シタルトキハ其謄本ヲ所轄市町村長ニ送付スヘシ

市町村長ニ於テ前項ノ謄本ヲ受ケタルトキハ納稅義務者ノ申告ヲ徵セ直ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ  
郡長ハ別ニ送付スル檢擧高一入別調書ニ基キ賦課徵收ノ取扱ヲ爲スヘシ

二 縣稅検査ヲ行フ官吏吏員ハ縣稅検査規則第二條ノ外尙ホ左ノ事項ヲ視察スヘシ

- 一 納稅者縣稅負擔ノ狀況
- 二 郡市町村ニ於ケル縣稅徵收事務ノ狀況
- 三 滯納ノ狀況
- 四 町村ニ於ケル縣稅金保管及納入ノ狀況

○縣稅検査書謄本處理ニ關スル件

(大正二年二月十三日地第一〇七號) (號內務部長ヨリ各郡長ニ通牒)

縣稅検査書謄本ノ送付ヲ受ケ處分ヲ行フニ當リ往々檢擧ノ事實ニ反スル處理ヲ爲ス向有之候處右ノ場合ニ於テハ豫メ其事實ヲ具シ御協議相成候様致度依命此段通牒候也

○縣稅通脱稅者處理方ニ關スル件

(大正八年七月二十六日地第四〇二五號) (號ヲ以テ内務部長ヨリ各郡長ニ通牒)

縣稅検査ノ檢擧ニ係カル通脱稅ノ處理方ニ關シ大正二年二月地第一〇七〇號ヲ以テ通牒置候處右ノ趣旨ハ所轄町村長ニモ示達相成度此段及通牒候也

○縣稅検査書様式ノ件

納稅義務者	宮城縣
立會人	宮城縣
第 縣	市郡
市郡	市郡

號 第				
本原書査檢稅				
課稅標準	事由	検査員	納稅義務者	立會人
		宮城縣主記	宮城縣	宮城縣
	大正 年 月 日		市郡	市郡
		正本交付證		

に四

検査セリ

號 第				
本謄書査檢稅縣				
課稅標準	事由	検査員	納稅義務者	立會人
		宮城縣主記	宮城縣	宮城縣
	大正 年 月 日		市郡	市郡

七八

検査セリ

號 第				
本正書査檢稅縣				
課稅標準	事由	検査員	納稅義務者	立會人
		宮城縣主記	宮城縣	宮城縣
	大正 年 月 日		市郡	市郡

七九

検査セリ

○船車検査ノ件 (明治三十一年九月 縣令第三〇號)

船車所有者又ハ使用者若ハ納稅代人ニ於テ郡長又ハ市町村長ヨリ検査ノ通達ヲ受ケタルトキハ其ノ指定サレタル場所ニ於テ検査ヲ受クヘシ  
 本則ニ違フモノハ二十圓未満ノ科料ニ處ス會社及組合ニアリテハ其代表者ヲ處罰ス (大正七年八月縣令第四十二號ヲ以テ追加)

附 則

本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス (罰則) (大正七年八月 廿日發布ス)

第四編 検査規則

○船車検査手續 (明治三十一年九月訓令第四十一號 大正八年八月訓令甲第二十六號改正)

第一條 課税ノタメ船車ノ検査ヲ行フトキハ左ノ事項ヲ點檢測定スヘシ

- 一、鑑札(五噸以上ノ船)檢印、烙印、ノ有無(鑑札、烙印ハ又ハ自轉車)
- 二、船ハ其種目、積量、間數
- 三、車ハ其種目、區別
- 四、水車ハ其種目、基數

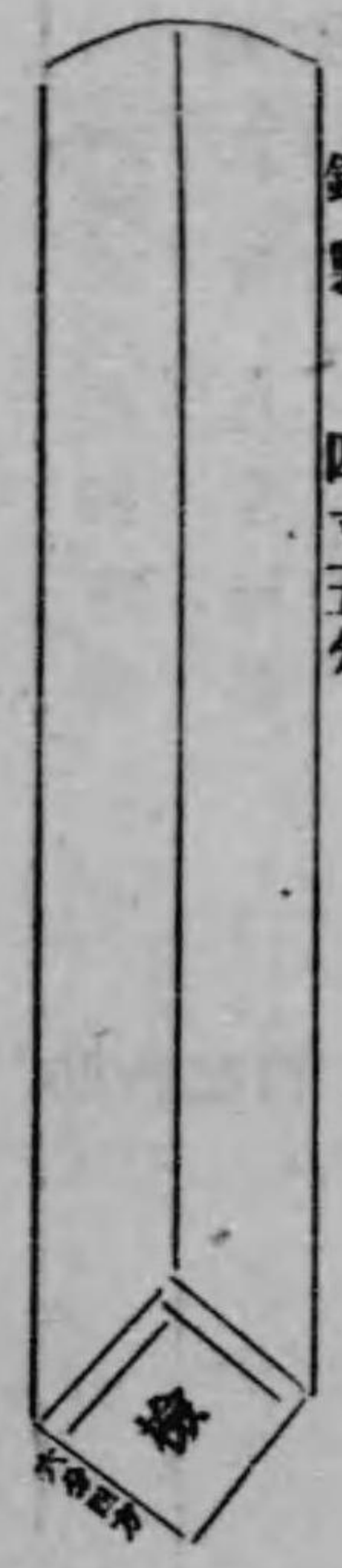
第二條 西洋形船及日本形船(小船ヲ除ク)ノ噸數及石數ハ大正三年三月法律第三十四號船舶積量測定規則ニ據リ

小船(積量五十石未満、解流、小艇船發動機掛付船)及遊船ノ間數ハ船梁ヨリ船梁マテ 軸梁船梁ノ設ケナキモノハ船長ノ三分ノ二軸梁ヨリ船ノ間數ヲ測定スヘシ 梁マテノ間隔船長三分ノ二以下ナルトキハ三分ノ二

第三條 人力車ハ橫幅内法ヲ測定シ曲尺二尺以上ト二尺未満トニ依リ二人乗ト一人乗トヲ區別シ又荷積車ハ車臺ノ縱横外法ヲ相乘シ尺積曲尺十四坪以上ヲ大車十四坪未満ヲ小車トシテ區別スヘシ

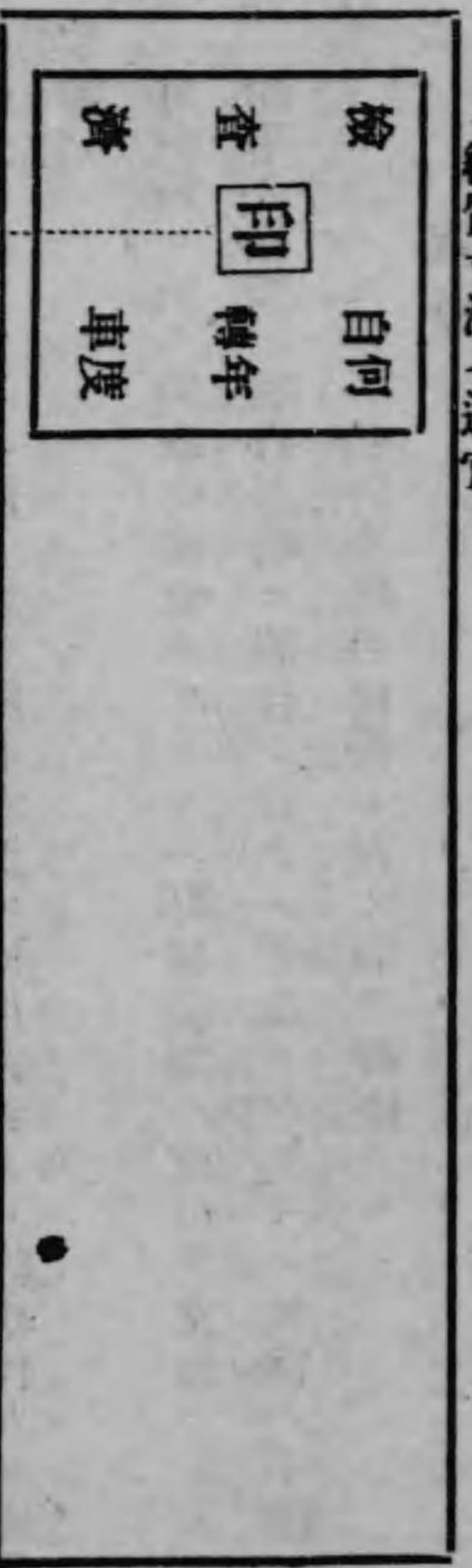
第四條 郡市長ニ於テ検査ヲ終リタルトキハ左記雛形ノ極印又ハ検査證紙ヲ其物件ニ押捺又ハ貼付スヘシ

- 一、馬車、荷積馬車、牛車、荷積車船ニ押捺スヘキモノ
- 鐵製 四寸五分

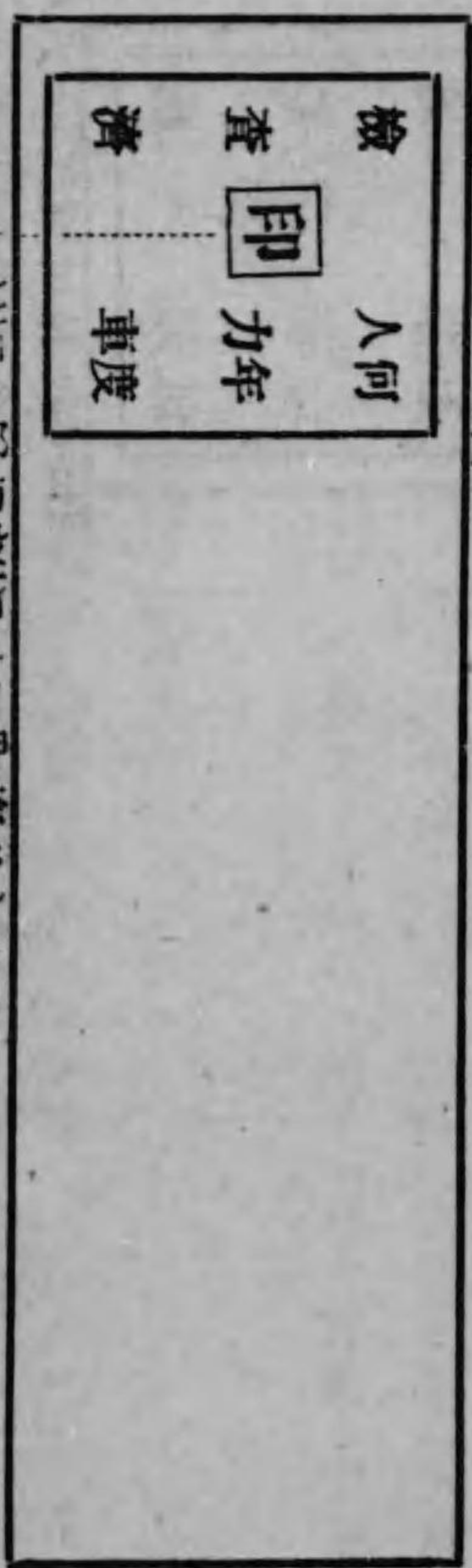


但「檢」字ノ頭部ニ検査施行ノ年度ノ極印ヲ押捺スヘシ (例ヘハ八年度ハ「四」ノ印九年度ハ「五」ノ印トス 追年之レニ做フ)

- 二、自轉車ニ貼付スヘキ検査證紙(車臺中鑑札取付以外ノ部) (紙質寸法ハ適宜)



- 三、人力車ニ貼付スヘキ検査證紙(車臺中棍棒ニ卷) (紙質寸法ハ適宜)



此所ニ郡市役所印ヲ押捺スルコト

四、自動車ニ貼付スヘキ検査證紙(車中後部外面ニ貼付スルコト)

(紙質寸法ハ適宜)



此所ニ郡市役所印ヲ押捺スルコト

第五條 検査ヲ行フトキハ豫メ船車所有者又ハ使用者若クハ納税代人ニ通達シ一定ノ場所ニ集メ検査スルコトヲ得

第六條 郡吏員ニ於テ船車ヲ検査スルトキハ町村役場ノ吏員ヲ立會ハシムヘシ

第七條 船車ノ検査ハ物件臺帳ニ照合シ若クハ差違アルトキハ相當ノ手續ヲナシ臺帳ヲ加除訂正スヘシ  
検査ヲ了シタルモノハ物件臺帳事由欄ニ左ノ印ヲ押捺スヘシ

四分

何年検査済

印

第八條 検査ヲ行ヒタルトキハ二十日以内ニ別ニ定ムル様式ニ依リ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ其結果

ヲ報告スヘシ

第九條 此手續ハ明治二十九年(四月)法律第六十七號船舶検査法ニ依リ船舶ノ検査ヲ受クルモノニ適用セス

○課税取扱方ノ件

(大正八年四月十四日地第二一〇六號内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

縣稅検査員ノ檢舉ニ係ル通稅脱稅者ニ對シテモ從來縣稅納稅義務者届出規則ニヨル届出ヲ爲サシメタル後課稅スルノ例ニ有之候處自今此ノ場合届書ヲ徵セス縣稅検査書(課稅標準ナキモノハ除ク)ニ基キ直チニ課稅ヲ了セラレ度依命此段及通牒候也

追テ曩ニ檢舉セシ者ニシテ未タ其届出ナク課稅未済ノモノ有之候ハ、本文ニ準シ課稅セラレ度申添候也

○船車検査ニ關スル件

(大正七年七月廿日開會各郡市主任書記會ヘ指示)

一、船中検査施行ノ際ハ烙印、鑑札ノ有無、積量、脱稅ノ有無等精密検査施行スヘキ取扱ナルニ拘ハラス  
往往左ニ連記スル如キ不都合ノ取扱アリ本年度ニ於テハ特ニ此點ニ留意検査シ課稅及取締上遺憾ナキ様  
執行スルヲ要ス

一、烙印ナキ物件ニ對シ烙印ヲ押捺スルモノアリ

一、一物件ニシテ二ヶ所以上烙印ノ押捺シアルモノアリ

一、新ニ納稅義務ノ起リタル物件トシテ取扱フヘキモノヲ修繕トシテ取扱ヘタルモノアリ

第五編 縣稅徵收ニ關スル件

二〇

烙印ノ消滅シタル物件ニ對シテ烙印ヲ押捺セサルモノアリ  
船ニ對シテハ一般ニ烙印ノ押捺ナキモノ多シ本年度ニ於テハ必ス押捺スルヲ要ス  
【荷積車ニシテ積量六坪以上ノモノヲ尙ホ小車トシテ課稅スルモノアリ】

府縣稅徵收ニ關スル件

目次

府縣稅徵收ニ關スル件.....一

目次



○府縣稅徵收ニ關スル件

(明治三十三年三月  
勅令第八一號)

第一條 市町村ハ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ

前項徵收ノ費用トシテ地租附加稅ニ對シテハ其徵收金額ノ千分ノ七其ノ他ノ府縣稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ(四十四年十月勅令第二七四號ヲ以テ改正四十五年ヨリ施行)

第二條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ依リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其稅金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第三條 府縣知事前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其決定ニ不服アル者ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四條 府縣稅ヲ徵收セムトスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ハ直ニ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得  
府縣ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限り前二項ノ例ニ依ラス其ノ府縣ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ府縣稅ヲ納入セシムルコトヲ得(大正二年六月勅令第二四七號ヲ以テ第三項追加)

第五條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納税人ハ其税金ヲ市町村ニ拂込ミ其領收證ヲ得テ納税ノ義務ヲ了ス但シ府縣知事ハ市町村吏員ヲシテ納税人ニ對シ徵稅令書ヲ發セシムル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラシムルコトヲ得(同上但書追加)

徵稅令書ヲ受ケタル納税人ハ其ノ税金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納税ノ義務ヲ了ス市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其領收證ヲ得テ税金納入ノ義務ヲ了ス税金ノ拂込又ハ其ノ拂込金ノ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納税人又ハ市町村ハ税金ヲ郵便官署ニ拂込ミ又ハ納入スルニヨリテ其ノ義務ヲ了ス(四十四年十月勅令第百二十七號ヲ以テ追加)

第五條ノ二 第四條第二項ノ規定ニ依リ市町村吏員ヲシテ徵稅令書ヲ發セシメタル場合ニ於テハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スルコトヲ得(同上)

第六條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納税人納期內ニ税金ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ其ノ滯納ノ税目金額及滯納人ノ住所氏名其他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ徵稅令書ヲ發シタル官吏吏員ニ報告スヘシ徵稅令書ヲ發シタル官吏吏員前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ督促狀ヲ發スヘシ徵稅令書ヲ受ケタル納税人納期內ニ税金ヲ完納セサルトキ亦同シ(三十五年勅令第一七三號ヲ以テ改正)

督促狀ニハ府縣知事ノ定メタル期間內ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ

第七條 督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ヲ徵收ス(同上)

手数料ノ額ハ府縣知事ノ定ム(大正二年六月勅令第百二十四號ヲ以テ改正)

市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手数料ハ其ノ市町村ノ收入トス(同上)

第七條ノ二 督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付税金額ノ百分ノ四以內ニ於テ府縣知事ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス(大正二年六月勅令第百二十四號ヲ以テ追加)

- 一 令書一通ノ税金額五圓未満ナルトキ
- 二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ
- 三 納税者ノ住所、居所カ帝國內ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納税ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ハ之ヲ徵收セス

第八條 納税人左ノ場合ニ該當スルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル府縣稅ニ限リ納期前ト雖モ之ヲ徵收スルコトヲ得(同上)

- 一 國稅徵收法ニ依ル滯納處分ヲ受タルトキ
- 二 強制執行ヲ受タルトキ
- 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 競賣ノ開始アリタルトキ

五 法人カ解散ヲ爲シタルトキ

六 納税人脱税又ハ遁税ヲ謀ルノ行爲アリト認ムルトキ

第九條 相續開始ノ場合ニ於テハ府縣稅、督促手数料、延滞金及滞納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス 但戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得(三十五年勅令第一七三號及大正二年同第二四七號ヲ以テ改正)

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ府縣稅、督促手数料及滞納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

第十條 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル府縣稅、督促手数料、延滞金及滞納處分費ハ納税者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(上同)

第十一條 同一年度ノ府縣稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得(三十五年勅令第一七三號及大正二年同第二四七號ヲ以テ改正)

第十二條 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ市町村長ニ申告スヘシ其納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ(上同)

第十三條 徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人之住所又ハ居所ニ送達ス(上同) 納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其住所又ハ居所ニ送達ス

第十四條 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所

居所アラサルトキ若ハ其住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(三十五年勅令第一七三號及大正二年六月勅令第二四七號ヲ以テ改正)

第十五條 府縣稅ノ徵收期ハ府縣知事之ヲ定ム

第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル府縣稅ノ徵收ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス其準用シ難キ事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第十七條 本令ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(大正二年六月勅令第二四七號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中延滞金ニ關スル規定ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル府縣稅ヨリ之ヲ適用ス

第六編 手數料、延滯金

第六編 行政費 縣費 縣費

目次

縣稅督促手数料額.....	〱
縣稅滯納延滞金ノ割合.....	〱
自轉車鑑札再交付手数料.....	〱
縣稅徵收交付金交付手續.....	〱

目次

○縣稅督促手数料額

(明治三十五年七月) (大正四年二月)  
(縣令第四九號改正) (縣令第二號改正)

明治三十三年勅令第八十一號府縣稅徵收ニ關スル件第七條第二項ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ縣稅督促手数料ノ額ヲ定ムル左ノ如シ

- 一 縣稅督促手数料ハ督促狀一通毎ニ金貳拾錢トス但納稅額壹圓未滿ノモノハ手数料金拾錢トス
  - 一 督促狀ノ送達カ郵便ニ依リタル場合ハ増手数料トシテ郵便料ヲ徵收シ使丁ニ依リタル場合ハ其ノ督促狀發付ノ行政廳所在地以外ノ滯納者ニ對シ其ノ里程ニ應シ一里毎ニ金拾錢ノ増手数料ヲ徵收ス
- 本令ハ明治三十五年九月一日以後發スル督促狀ヨリ之ヲ適用ス

○縣稅滯納延滯金ノ割合

(大正二年七月)  
(縣令第二九號)

明治三十三年三月勅令第八十一號府縣稅徵收ニ關スル件第七條ノ二ニ依リ徵收スル延滯金ノ額ヲ定ムル左ノ如シ

- 一、稅金額百圓ニ付 一日金四錢
- 但シ延滯金ノ計算額四錢未滿ナルトキハ之ヲ徵收セス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○自轉車鑑札再交付手数料規則 (大正八年三月 縣令第十四號)

第一條 縣稅ノ賦課ヲ受クヘキ自轉車ニ對シ鑑札ノ再交付ヲ爲ストキハ手数料トシテ鑑札一個ニ付金壹圓ヲ徵收ス

第二條 手数料ハ鑑札ノ再附着ヲ請フトキ之ヲ納付スヘシ

附 則

本則ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○縣稅徵收交付金交付手續 (明治三十三年十月訓令第七〇號)

第一條 明治三十三年勅令第八十一號第一條ノ縣稅徵收交付金ハ左ノ二期ニ分チ實際市町村ニ於テ徵收シ

縣金庫ニ納入シタル額ニ依リ之ヲ交付ス

第一期 四月六日ヨリ十月五日迄

第二期 十月六日ヨリ四月五日迄

第二條 郡長ハ毎年度第一號式ニ依リ收納金額、交付金額ヲ取調第一期ハ十月二十日第二期ハ四月二十日迄ニ知事ニ報告スヘシ但交付金仕拂ノ委任ヲ受クタル場合ハ本條ノ報告ヲ要セス

第三條 (削除)

第一號式

何年度縣稅 自何年何月何日 至何年何月何日 徵收交付金報告

何 郡

町村名	營業稅	雜種稅	戶數割	附加營業稅	附加所得稅	附加礦業稅	計	算ノ四 交付金	地租割	千分ノ七 交付金	合 計
計											
郡役所直 接收入											
合 計											

右報告候也

年 月 日

知 事 宛

郡 長 氏

名 剛

第七編 徵收期限



縣稅徵收期限

目次

縣稅徵收期限

..... 1

目次

○縣稅徵收期限

(明治三十八年五月廿三日縣令第十二號)

地租割

上半期

四月十六日マテ

五分

下半期

十二月十六日マテ  
十二月廿八日マテ

五分

營業稅、雜種稅

年稅

繭生糸屑物賣買業

年額

六月十五日マテ  
六月二十日マテ

前掲期限後開始ノモノハ其ノ時々年額ヲ徵收ス

其他

上半期

八月十六日マテ  
八月三十一日マテ

五分

下半期

一月十六日マテ  
一月三十一日マテ

五分

藝妓稅中酌婦稅ハ前掲ノ期限ニ依ラス開始又ハ繼續證印ノ際其期ノ全額ヲ徵收ス  
狩獵稅ハ前掲ノ期別ニ依ラス免許ノ際其金額ヲ徵收ス

月稅

其月四日ヨリ十日迄

第七編 徵收期限

日税及一時税中屠畜税ハ其時々前收ス其他ノ一時税ハ其時々徴收ス  
遊藝稼人、俳優、相撲(行司共)税ハ開始又ハ繼續證印ノ際之レヲ徴收ス

營業稅附加稅 上半年 六月十六日ヨリ 五分

下半年 十一月三十日マテ 五分

戶數割 上半年 五月十六日ヨリ 五分

下半年 十月三十一日マテ 五分

鑛業稅附加稅

年額 鑛區稅ニ對スル分 十二月十六日ヨリ

年額 鑛區稅ニ對スル分 十二月二十八日マテ

砂鑛區稅附加稅 年額 三月十六日ヨリ

年額 三月三十一日マテ

賣藥營業稅附加稅 年額 十二月十六日ヨリ

年額 十二月二十八日マテ

取引所營業稅附加稅 其月十六日ヨリ末日マテ

營業稅附加稅、所得稅附加稅ハ本稅ノ徴收猶豫ヲ受ケタルカタメ前掲ノ期限ニ依リ難キモノハ各其稅額確定後本稅徴收ノ初期ニ於テ之ヲ徴收ス

年稅中年額三十錢以內ノ縣稅(地租割)ハ前各項ノ期別ニ依ラヌ其全額ヲ上半年ノ徴收期ニ於テ一時ニ徴收ス  
課目課額ニ於テ稅率ヲ定メタル漁業稅及飲食店業中氷店專業者ノ稅額亦同シ  
前各項ニ定メタル其徴收期後新ニ納稅義務發生シ若クハ期限前義務消滅シタルモノハ其時々徴收ス  
年稅ノ追加ハ其豫算告示上半年ノ徴收期月ノ初日前ナルトキハ前各項ノ區分ニ依ル告示上半年ノ徴收期月ノ初日以後ナルトキハ下半年ニ於テ其全額ヲ徴收ス但下半年ノ徴收期月ノ初日以後ナルトキ又ハ特ニ徴收期定ムル必要アルトキハ別ニ之ヲ定ム

第八編  
計

算

目次

國庫出納金端數計算法……………ち一  
同 上第五條第二項ノ命令ノ件……………ち二  
同 上圓位未滿切捨ツヘキ國稅指定……………ち二  
地租割戸數割營業稅雜種稅國稅附加稅、分納ニアラサル件……………ち三  
縣稅額算出方ノ件……………ち四  
賦課方法ヲ定ムル場合錢位ニ奇數ヲ附セサル件……………ち四  
縣以下ノ地租附加稅ニ國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ニ關スル法律準用ノ件……………ち五  
追加ノ課率ハ本稅率ニ合算スルノ件……………ち五  
法律第二號解釋ノ件……………ち五  
出納金端數計算法ニ關スル件……………ち六  
課稅標準計算期間ニ關スル件……………ち六

○國庫出納金端數計算法

(大正五年一月  
法律第二號)

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス 但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノ、外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス 但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ効力ヲ有ス

○國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件 (大正五年三月勅令第五十六號)

國庫ノ收入及仕拂中左ニ掲クル種目ニハ國庫出納金端數計算法ヲ適用セス

- 一、切手及印紙類賣下代金
- 二、沒入金沒收金及犯罪ニ基ク追徵金
- 三、法令ニ依リ當然國庫ニ歸屬スル收入金
- 四、貨幣交換差金
- 五、外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金
- 六、缺損補填金
- 七、切手貯金拂込金

附 則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ施行ス

○國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定 (大正五年三月大藏省令第二號)

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅ヲ指定スル左ノ如シ

- 一、第一種所得稅
- 二、第三種所得稅
- 三、營業稅
- 四、相續稅
- 五、取引稅
- 六、取引所營業稅
- 七、鑛產稅
- 八、戰時利得稅

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○地租割、戶數割、營業稅、雜種稅、營業稅附加稅、所得稅附加稅

ハ分納ニアラサル件 (明治三十五年四月內五收第一三一八號內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

課稅標準額及稅額計算ニ關スル件【本年三月法律第二十二號】ヲ以テ發布相成候處【明治三十三年十一月本縣令第二號地租割戶數割賦課規則】ハ同法第二條ノ所謂分納ニアラサルヲ以テ第二條ヲ準用スヘキ限リニ無之候條毎納期ニ於テ第一條ニ據リ處理相成可然ト存候爲念此段通牒候也

○全上ノ件

(明治三十五年六月内五收第二一八八) 號内務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

ち四

地租割戸數割賦課規則【本年三月法律第二十二號第二條】ノ所謂分納ニアラサル義ニ付四月十七日内五收第一三一八號ヲ以テ及通牒置候處營業稅、雜種稅、營業稅附加稅、所得稅附加稅、モ毎賦課期ニ於テ賦課額全部ヲ一時ニ徵收スルヲ以テ前同様【法律第二十二號第二條】ヲ準用スヘキ限リニ無之第一條ニ據リ處理可相成義ニ候條爲念此段通牒候也

○縣稅額算出方ノ件

(明治三十八年十月廿日第一) 部長ヨリ各郡市長ニ通牒

縣稅ノ各納稅人ノ稅額計算方法ハ本稅額(地租、營業稅、所得稅額)ニ稅率ヲ乘シ厘位ヲ生スルトキハ四捨五入ノ法ニ依リテ之ヲ錢位ニ止メ更ニ之ヲ二分シ厘位ヲ生スルトキハ又右ノ法ニ依リ錢位ニ止メ其額ヲ以テ上半期又ハ下半年期ノ稅額ト爲ス向ト本稅額ニ稅率ヲ乘シ厘位ヲ生スルモ其儘之ヲ存シ更ニ之ヲ二分シ厘位ヲ生シタルトキ始メテ之ヲ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止メ上半期又ハ下半年期ノ稅額ト爲ス向トアリテ其計算區々ニ涉リ居ル哉ニ相聞得候處右ハ前段ノ例ニ依リ計算スルヲ妥當ト存候條自今右ニ依リ計算候様各町村長ヘ御示達相成度依命此段通牒候也

○賦課方法ヲ定ムル場合錢位ニ奇數ヲ附セサル件

(明治四十年四月地第四四二九號) 内務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

【本年三月法律第三十一號】ヲ以テ一錢未滿ノ端數計算ニ關スル件相定ノラレ候處右一錢未滿ノ端數切捨ノ

一〇二

一〇三

關係アルヲ以テ縣稅戸數割及營業稅雜種稅ノ賦課方法ヲ定ムル場合ニハ二十錢以上ノ稅額ハ可成錢位ヲ偶數ト爲ス様夫々注意ヲ加ヘラレ度此段及通牒候也

○縣以下ノ地租附加稅ニ國庫出納上一錢未納ノ端數計算ニ

關スル法律準用ノ件 (明治四〇年四月知事ヨリ) 内務省地方局長ニ電報同

【法律第三十一號第三條】ハ縣以下ノ地租附加稅ニ準用シ得ルヤ

○同上ノ件 (同年四月内務省) 地方局長回答

【法律第三十一號】ノ件見込ノ通リト存ス

○追加ノ課率本課率合算スル件 (大正四年三月三十日地第一九三七) 號内務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

地租割其他年稅追加豫算カ上半期分徵收期月ノ初日前ニ告示セラレタルトキハ該追加豫算ノ課率ト當初豫算ノ課率トヲ合算シ之ヲ二期ニ平分シテ每期ノ賦課率ト爲スヘキ筋ニ有之條爲念此段及通牒候也

○法律第二號解釋ノ件 (大正五年八月二日内務部) 長ヨリ遠田郡長ニ回答

遠庶第一七五四號ヲ以テ縣稅地租割及町村稅地租附加稅ノ賦課額計算方ニ關シ御照會相成候處右ハ御見込ノ通ニ有之候條此段及回答候也

○法律第二號解釋ノ件 (大正五年三月廿三日遠庶第) 一七五四號遠田郡長照會

本年法律第二號ヲ以テ國庫出納金端數計算法改正セラレ四月一日ヨリ施行相成候處然ルニ縣稅地租割及町



村税地租附加税ハ同法第一條ニヨリ算出スヘキモノニシテ第四條ニ依ルベキモノニアラズト被存候得共聊カ疑義相生シ候間何分ノ御回示相成度候也

○出納金端數計算法ニ關スル件

(大正五年二月二十三辰内縣收第七三三號神奈川縣照會)

本年一月法律第二號ヲ以テ國庫出納金端數計算法ヲ定メラレタル結果地租ノ分納額ニ付テハ同法第四條ヲ適用セサルコトニ相成候ニ付テハ該徴收ハ同法第一條及第三條ニ依ルヘキ事ト思料候ハ共爲念御意見承知度候

○同上ノ件

(大正五年二月廿六日往第(一六〇一號主稅局長回答)

去ル二十三日付辰内縣收第七三三號ヲ以テ御照會相成候國庫出納金端數計算法ノ解釋ニ關スル件右ハ御見込ノ通地租ニ付テハ其年額ハ第三條ニ依リ每期ノ分納額ハ第一條ニ依ルヘキ義ニ有之候

○課稅標準計算期間ニ關スル件

(大正八年四月十五日地第二、一二七號ヲ以テ内務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

縣稅納稅義務者届出規則中課稅標準ノ計算期間ヲ其年一月ヨリ十二月マテト明記ナキタメ從來會計年度ノ期間ニ依リ取扱ヒタル向モ有之區々ニ涉ルヲ以テ今回曆年ニ依ルコトニ同則ニ明記相成候ニ付テハ八年度ノ課稅標準ハ七年度ノ課稅標準ト重複セサル様御留意相成度尙ホ七年度ニ於テ會計年度ノ期間ニ依リ取扱ヒタル向ノ八年度課稅標準ハ四月ヨリ十二月マテノモノヲ以テ賦課稅額ヲ決定候様御取扱有之候此段及通牒候也

第九編 賦課通則

新編 知事 監 監

目次

府縣稅附加稅賦課ノ必要事項稅務監督局ヨリ報告方件.....り一

縣稅賦課取扱ノ件.....り一

縣稅脫稅ノ取締ニ關スル件.....り一

脫稅營業者督促上ニ關スル件.....り二

縣稅賦課上取扱ノ件.....り二

納稅義務者中現住不明ノモノ發見中報告方ノ件.....り三

縣稅逋脫稅者届出方ノ件.....り三

未届出者取締ノ件.....り四

營業稅賦課ニ關スル件.....り五

警察署取締ニ屬スル營業物件縣稅賦課方ニ關スル件.....り五

新規開業者ノ賦課額ニ關スル件.....り六

縣稅賦課方法制定ニ關スル件.....り六

縣稅賦課事務ニ關スル件.....り七

縣稅營業者カ國稅營業者トナリタルトキ課稅方ノ件.....り七

課稅標準申告査覈方ノ件.....り七

課稅取扱方ノ件.....り八

目次

○府縣ニ於ケル附加税ノ賦課ニ關シ必要ナル事項

稅務監督局長ヨリ報告ノ件

(明治三十年一月坤第六四)  
(三號大藏省主稅局長通牒)

稅務管理局長ヨリ地方長官ニ對シ府縣ニ於ケル附加税ノ賦課ニ關シ必要ナル國稅事項報告ノ件別紙ノ通り訓示相成候ニ付御承知相成度此段及依命通牒候也

(別紙)

地方長官ヨリ府縣ニ於ケル附加税ノ賦課ニ關シ必要ナル國稅事項報告ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ直接ニ地方長官ニ對シ之ヲ報告スヘシ

○縣稅賦課取扱ノ件

(明治三十八年二月一日内一地第七一九號)  
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

稅務主任郡市書記會同ノ際協定未濟ノ事項左記ノ通御取扱相成度經向ノ上此段及通牒候也

一、縣稅未納ノ儘(納稅管理人ヲ置キタルモノハ除ク)他郡市町村ニ轉シタルモノノ税金ハ督促狀發布前ノモノハ轉入地ニ於テ其發布後ニ係ルモノハ轉出地ニ於テ徵收スルコトニ御取扱相成度

料理店業者ニシテ從來飲食店ノ届出ヲ爲シ來リタルモノ料理店業ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ其發見ノ期ヨリ若シ其期ノ稅額納入後ナルトキハ次期ヨリ料理店業稅ヲ賦課スルコトニ御取扱相成度但營業者通稅ノ目的ニ出テタルモノト認メタルトキハ此限ニアラス

○逋稅脫稅ノ取締ニ關スル件

(明治三十八年四月十一日内一地第二四五八號)  
(內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

縣稅營業稅雜種稅ノ逋稅脫稅取締ニ關シテハ縣稅檢査ノ結果ニ依リ其都度及通牒尙稅務主任會伺ノ際主務課ヨリ及協議置候次第モ有之候ニ付課稅ニ關シテハ夫々御注意相成居候事ト被存候處尙一般逋稅脫稅者ヲ生セシメサルハ勿論左ノ各項ニ關シテハ一層御注意相成様致度爲念此段及通牒候也

記

一、他府縣ヨリ行商者中(縣内ノ滞在三ヶ月以上ニ涉ルモノ)賣藥者以外ノモノニハ脫稅者多キ嫌ヒアルヲ以テ此等ノ者ヲ取調課稅スルコト

○脫稅營業者督促上ニ關スル件 (明治三十五年一月) (部達第二號)

納稅ヲ爲サスシテ各種ノ業ヲ營ムモノアルトキ納稅督促上ノ事ニ關シ郡市長ヨリ協議ヲ盡スコトモ可有之ニ付其節ハ協議ニ應スヘク又逋稅者アルコトヲ發見シタルトキハ其時郡市長ニ通報スヘシ

○縣稅賦課上取扱ノ件 (明治三十九年四月十九日) (訓第四七號仙臺市長へ訓令)

縣稅賦課ニ關シ諸營業又ハ物件ニシテ届出後納稅義務者又ハ納稅義務者ト課稅物件トヲ併セ所在不明ノモノアル場合ニ於テハ左記各項ニ依リ取扱フヘシ

一、納稅義務者又ハ納稅義務者ト課稅物件トヲ併セ所在不明ノモノアルトキハ臺帳中現在ノモノト分離シ別口座ヲ設ケ之ヲ整理シ所在發見ニ至ル迄課稅ノ手續ヲ停止スヘシ但其所在ヲ發見シタルトキハ現在ノ

部ニ移記シテ課稅ノ手續ヲナスヘシ

二、前項所在不明ノモノアルトキハ市長ハ其稅目課稅標準稅額納稅義務者ノ住所氏名ヲ明記シ知事ニ報告スヘシ而シテ減額令書其他當廳ノ通知ニ依リ前項本文ノ手續ヲ爲スヘシ

三、所在不明ノ爲別口座ニ整理シタルモノ、所在ヲ發見シタルトキハ市長ハ第一項但書ニ依リ臺帳ヲ整理シ稅目、課稅標準、稅額(賦課見込)納稅義務者ノ住所氏名並ニ臺帳登錄濟ノ旨等ヲ明記シ知事ニ報告スヘシ

○納稅義務者中現住不明ノモノ發見報告方ノ件

(明治三十九年六月十九日仙臺布第一二七九號) (仙臺市長ヨリ第一部長へ照會)

納稅事務整理上必要ニ有之候間御部内ニ於テ縣稅納稅者中現住不明ノモノ發見相成候節ハ其都度御通報有之候様御取計相成度此段及照會候也

○同上ノ件 (明治三十九年八月十八日地第一〇〇二二號) (第一部長ヨリ仙臺市長へ回答)

仙臺布第一二七九號ヲ以テ縣稅納稅義務者現住不明ノモノ發見ノ場合通報方ノ件御照會ノ處右ハ當廳ニ於テ發見シタルモノハ夫々可及御通報候條貴市ニ於テ發見シタルモノハ其時々御申報相成度此段及通牒候也追テ納稅義務者届出規則ニ依リ住所移轉ノ届出ヲ要スルモノハ其發見ノ都度届出テシムル様御取扱相成度爲念申添候也

○縣稅逋稅者ノ届出方ノ件 (明治四十一年一月十一日) (財第二〇五號栗原郡長照會)

縣稅通脫稅者檢舉シ注意ヲ加フモ應セサル爲メ告發シタル結果科料處分ヲ受ケタルモノニ對シ屆書ノ更正  
又ハ届出ヲ爲ササルモ判決ニヨリ事實明瞭シアルモノハ直チニ課稅ノ取扱ヲ爲スモ差支ヘ無之ト被存候モ  
聊カ疑義ニ相涉リ候條至急御明示相煩度此段及照會候也

○右 回 答 (明治四十一年十一月二十日  
地第二四八號內務部長回答)

縣稅通脫者ニ對シ課稅方ノ儀ニ付御照會ノ處例令當初注意ヲ促シタルモ届出サルカ爲メ告發ヲナシ所罰セ  
ラレタル場合ト雖モ相當届出ヲ爲サシムルヲ至當トスヘク尤モ處分後届出ヲ促スコト再三ニ及ブモ猶ホ其  
届出ヲ爲ササルニ於テハ御見込ノ通り御取扱相成可然ト存候經伺ノ上回答候也

○未届出者取締ノ件 (明治四十五年二月五日保秘第二五號  
保安課長ヨリ各警察官署長ヘ通牒)

商業工業ヲ營ミ或營業又ハ行爲ヲ爲シ若クハ場所ヲ設ケ物件ヲ所有スルモノニ對シ營業稅若クハ雜種稅ト  
シテ縣稅ヲ賦課セラル、モノ、種別ハ縣稅賦課規則第十二條第十三條ノ規定スル所ニシテ其届出若クハ申  
告ノ手續及期間等ニ就テハ縣稅納稅義務者届出規則第一條以下ニ於テ規定スル處ナリ然ルニ近來往々右届  
出若ハ申告ヲ怠リ又ハ實ヲ以テセサル者有之結局刑事上ノ處分ヲ要スヘキモノ決シテ尠カサル實況ニシテ  
地方稅務整理上支障アルノミナラス多數ノ犯則者ヲ現出スルカ如キハ行政警察上亦大ニ遺憾トスヘキ事柄  
ト信シ候主務課ニ於テハ實地ノ調査ヲ遂ケ夫々規定ノ命スル處ニヨリ相當ノ届出又ハ申告ヲ了セシムヘク  
候ヘ共尙其督勵ニ應セヌ規定ヲ蔑視スルカ如キ徒輩ニ對シテハ斷然刑事處分ニ附シ從來ノ弊風ヲ芟除スル

ノ覺悟ナカルヘカラサル儀ト思料候ニ付實行ニ關シ出張吏員ヨリ協議等有之候場合ハ前條ノ趣旨ニ依リ相  
當御手配ノ上所期ノ目的ヲ達スルコトニ御努力相成度依命及通牒候也

○縣稅營業稅賦課ニ關スル件 (大正五年十二月一日地租第  
一二號地方局長ノ通牒)

營業稅法第二十一條第二項ノ營業者ニ對シ縣稅營業稅ヲ賦課シ得ルヤ否ノ件和歌山縣知事ノ問合ニ對シ賦  
課差支無之旨回答候條右御承知相成度候

追テ右賦課ニ關シ資本金ヲ課稅標準トセラル、ニ於テハ自然重課ト相成國稅徵收猶豫ノ旨趣ニモ反スル  
次第ニ付課稅ヲ爲ス場合ニ於テハ收益ノ有無等ヲ充分御調査ノ上取捨相成候様御注意相成度候

○縣稅營業稅賦課ニ關スル件 (大正五年十二月四日地租第六二〇號  
內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

營業稅法第二十一條第二項ノ營業者ニ對シ縣稅營業稅ヲ賦課シ得ルヤ否ヤノ件和歌山縣問合ニ對シ賦課差  
支無之旨回答ノ趣內務省地方局長ヨリ通牒有之候條御承知相成度依命此段及通牒候也

○警察署ノ取締ニ屬スル營業其他物件ニ對スル

縣稅賦課ニ關スル件 (大正六年九月各郡市財務  
主任書記會ニ於テ指示)

警察署ノ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル縣稅營業者其ノ他ノ物件等ニ對シ縣稅ノ賦課洩ニ係ルモノアリ酌婦  
乳牛ニ於テ最モ多キカ如シ今後ハ警察官署ト連絡ヲ保チ其ノ許可又ハ届出ノ際速ニ通知ヲ受クルコト、爲

シ縣稅賦課ニ遺漏ナキヲ期セラルヘシ

○新規開業者ノ賦課額ニ關スル件

(大正六年九月各都市財務主任書記會ニ於テ指示)

年度開始後ノ納稅義務發生者中戸數割商工業料理店飲食店稅等ノ納稅者ニ對スル賦課額ハ年度始現在納稅者ノ稅額ニ比シ概シテ低キニ失スル嫌アリ畢竟新規納稅義務發生者ニ對スル課稅標準ノ調査充分ナラサルニ因ルモノニシテ其ノ結果課稅ノ權衡ヲ失スル場合少ナカラサルヲ以テ今後此等ノ者ニ對シテハ一層課稅標準ノ調査ヲ精密ニシ課稅ノ均衡ヲ期セラルヘシ

○縣稅賦課方法制定ニ關スル件

(大正六年九月各都市財務主任書記會ニ於テ指示)

縣稅賦課方法ノ制定ニ關シテハ毎年度査定報告ノ際注意セラレタル所ナルモ尙ホ未タ改善セラレサルモノ多ク中ニハ十數年前制定ノ方法ヲ其ノ儘踏襲シ而モ其ノ方法ニ依ル調査ハ實際ニ適セサルモノアリト爲シ家計ノ狀況ヲ參酌シテ其ノ等級ヲ上下シ得ルノ規定ヲ設ケ居ル尙少ナカラス甚シキハ賦課法ヲ設ケタルノミニシテ各戸ノ標準調査ヲ爲サス見立割ノ方法ニ依リ等級ヲ定ムルモノアリテ賦課方法ハ名ノミニシテ其實ナキモノ多キカ如シ戸數割ノ如キハ其ノ賦課額ノ増加ニ伴ヒ標準調査ニ付キ異議申立ヲ爲スモノ漸ク多キヲ加フルニ至レリ畢竟其ノ調査ノ杜撰ナルニ基因スルモノト認メラル、ヲ以テ今後該方法ノ制定ニ關シテハ一層懇篤ナル指導ヲ加ヘ又其ノ査定ニ當リテモ精密ナル調査ヲ遂ケ不適當ト認ムルモノハ更正ノ手續

ヲ行ハシメ標準調査ニ遺漏ナカラシムルト共ニ課稅ノ權衡ヲ期セシメララルヘシ

○縣稅賦課事務ニ關スル件

(大正六年九月各都市財務主任書記會ニ於テ指示)

戸數割賦課方法及營業稅雜種稅賦課方法ノ査定並ニ縣稅賦課異議申立ニ關スル調査ヲ庶務係ニ於テ取扱フ向アリ如斯ハ平素賦課ノ事務ニ關係セサルモノ、調査ナルヲ以テ其正鵠ヲ失スルノ憾ナキ能ハサルヲ以テ今後ハ可成賦課事務擔任者ニ於テ取扱フコトニ改メラルヘシ

○縣稅營業者ガ國稅營業者トナリタル者ノ

課稅方ノ件

(大正七年七月廿日開會各部市財務主任書記會ニテ指示)

縣稅營業稅ノ納稅者ニシテ國稅營業稅ノ納稅者トナリタル場合國稅ハ曆年ニ依リ課稅ヲ爲ス結果其年一月ヨリ三月迄ノ營業ニ對シテハ附加稅ノ課稅ト重複スルコト、ナルヲ以テ此場合ニ於テハ右三ヶ月間ノ縣稅營業稅ハ月割ヲ以テ還付スルコトニ爾今取扱ハシメララシテ而シテ國稅營業稅ノ納稅者ニシテ縣稅營業者トナルタル場合ハ右三ヶ月分ニ對スル縣稅營業稅ノ追徵ハ一層勵行課稅セラレタシ

○課稅標準申告査方ノ件

(大正八年一月十一日地第一五九號ヲ以テ各部長ニ通知)

縣稅納稅義務者届出規則及營業稅採藻稅納稅義務者届出規則ニ依リ毎年度四月中ニ申告スヘキ課稅標準タル各種見積金額漁獲採取見積價格等ハ前年ノ收入額ヲ參酌シテ申告スヘキモノニ有之候處近來其課稅標準

ノ一部ヲ隱蔽シテ申告シ亦實際ニ合致セサル見積金額ノ申告ナルコトヲ認メ得ルニモ拘ハラス敢テ更正ヲ促サス其儘申告ヲ受理シテ不當ニ納税額ノ減少ヲ來シタルモノ有之哉ニ仄聞候處右ハ課税上看過スヘカラサル不正手段タルノミナラス反則者トシテ夫々處罰スヘキ筋合ニ有之候處如此ハ關係事務ノ繁雜ヲ來スノミナラス徵税政策上ニ於テモ大ニ考慮ヲ要スル義ト存セラレ候條大正八年度以降納税者ヨリ申告スヘキ之等ノ課税標準ハ尤モ事實ニ近キ金額ニ査覈申告セシメ不正手段ノ防遏ニ勉メラレ度尤モ本年度ヨリハ縣稅檢査ニ際シテモ此點ニ關スル脫稅ノ檢舉ニハ公正嚴密ヲ期セシムル豫定ニ有之候モ先ツ以テ御管下町村ニ於ケル之等取扱上ニ就テハ遺憾ナク御取締相成度依命此段及通牒候也

○縣稅取扱方ノ件

(大正八年四月十四日地第二一〇六號)  
內務部長ヨリ各郡市長ヘ通知

縣稅檢査員ノ檢舉ニ係ル逋稅脫稅者ニ對シテモ從來縣稅納稅義務者届出規則ニヨル届出ヲ爲サシメタル後課稅スルノ例ニ有之候處自今此ノ場合届書ヲ徵セス縣稅檢査書(課稅標準ナキモノハ除ク)ニ基キ直チニ課稅ヲ了セラレ度依命此段及通牒候也

追テ彙ニ檢舉セシ者ニシテ未タ其届出ナク課稅未濟ノモノ有之候ハ本文ニ準シ課稅セラレ度申添候也

第十編 縣稅賦課規則

目次

縣稅賦課規則..... 〇一

第一條..... 〇一

第二條..... 〇一

第三條..... 〇二

第四條..... 〇二

營業繼續ノ意義..... 〇二

第五條..... 〇二

通稅脫稅者發見ノトキ追徴ノ件..... 〇三

第六條..... 〇三

第七條..... 〇三

專決處分ニ關スル件、賦課方法ノ議決範圍ノ件、府縣制第九條ノ議決ヲ爲サルトノ意義、府縣稅ト市町村會..... 〇四

第八條..... 〇四

第九條..... 〇四

目次

地租額稅務署長ヨリ郡長へ通報方ノ件、地租割ノ課稅標準計算ニ關スル件、地租割ノ課稅標準計算方郡市長へ通牒ノ件、地租割ハ分納ニアラサル件、同上ノ件、神佛二教以外ノ宗教ノ用ニ供スル土地ニ課稅セサル件、神佛二教以外ノ宗教ノ用ニ供スル土地ニ府縣稅市町村稅課稅セサル件、社寺ニ準スヘキ土地ニ關シ市町村稅免除ノ件、免租處分ニ關スル効果トシテ直チニ府縣稅ヲ減免セサル件、同上各郡長へ通牒ノ件、公用地ノ課稅方ノ件、稅額算出方ノ件、地租割追加率賦課方ノ件、縣以下地租附加稅ノ端數計算ニ關スル法律適用ノ件、地租附加稅ハ合計金額ニテ法律適用スル件、課率ヲ異ニシ賦課スル場合端數計算ニ關シ法律適用ノ件、荒地免租ノ土地ニ對スル地



租割下戻ノ件、地租割追加率賦課方ノ件、地租割ニハ隨時ヲ課セサル件、地租割内譯金額徵稅傳令書ニ記載方ノ件、皇族ノ所有地ニ關スル件、收護皆無地免租ニ關スル件、財產取得稅賦課ニ關スル件、縣有地ニ對スル納稅事務取扱方ノ件、郡役所敷地免租ノ件、地租割ノ賦課ハ隨時徵收トナル場合、公用ノ意義免租地ト地租割、市町村組合、町村組合所有地ノ公用ニ供スル場合ト免租、直接公用ニ供スル一個人ノ所有地、公用ニ供スル火葬地、用水敷地ト課稅、防風水源涵養ノ保安林ト課稅、商業會議所ノ土地ト課稅、直接公用ニ供セサル市町村有ノ土地ト課稅、他ノ町村内ニアル市町村有土地ト課稅、家屋ノ幾部ヲ公用ニ供スル場合ノ課稅、郵便法第七條ト地租條例第四條第一項第一號但書トノ關係、一部又ハ個人ノ所有地ヲ學校病院等ノ用ニ供シタル場合ハ課稅、私立學校ト府縣稅ノ賦課、府縣稅及

市町村稅免除物件、神社寺院祠宇佛堂ト課稅、社寺用ニ供スル民有地、空地官有ノ土地ト舊市町村制第九十七條、所謂特別ノ事情アル者、特別ノ事情アルモノ、意義、私設鐵道用地ト免除規定、寺院ノ用ニ供スル土地、地租割ノ賦課、地租ノ免除、縣稅地租割免除

第十條……………二〇  
清國人ニ對シ租稅課ニ關スル件、新條約實施後外國人ニ對シ賦課スヘキ米稅ニ關スル件

第十一條……………二二  
一戸ヲ構ヘタル者ノ届出方ノ件、戶數割ヲ賦課スヘキ一戸ヲ構ヘタル者ノ例示ノ件、戶數割各人ノ賦課ノ標準ヲ設クルノ件、同上ノ件、戶數割等賦課標準ヲ設クルノ件、戶數割賦課ノ標準ヲ定ムル件、戶數割重復賦課ノ場合ノ件、戶口簿整理方ノ件、現在戶數調查方ノ件、戶數割毎

戶賦課額表様式ノ件、二ヶ所以上ニ戸ヲ構フルモノニ課稅ノ件、増加恩給ヲ戶數割賦課標準ニ算入セサル件、別荘ニ戶數割ヲ課スル件、縣稅戶數割追加率賦課方ノ件、戶數割賦課取扱ニ關スル件、戶數割納稅ニ關スル件、戶數割追加賦課方ノ件、追加戶數割賦課方ノ件、納稅義務發生者ニ對スル縣稅賦課方ノ件、戶數臺帳設備ニ關スル件、戶數調查ニ關スル件、三ヶ月以上滞在スルモノ、意義、町村ノ住民ト滞在人、本邦駐在ノ外國領事ト市町村稅ノ賦課、法人ト府縣稅戶數割賦課、戶數割ノ賦課、戶主ト同居スル家族アル戶數割ノ賦課、師團ニ在營セル外國軍人ト地方稅ノ賦課、府縣賦課規則ト何月何日ノ現在意義、豫審判事檢事正ノ官舎ト課稅、知事、警察部長ノ官舎ト課稅、減免ト或關係、在留外人ト租稅賦課ニ對ス

ル異議申立、府縣稅戶數割ノ賦課ト異議戶別割ニ關スル訴願、既納稅返還ニ關スル知事ノ命令ト訴願、三ヶ月ノ起算、戶數割賦課ノ取消、市町村會カ府縣稅賦課ノ細目ヲ議決スル方法ニ關シテ市町村制中何等ノ制限ヲ設クルコトナシ、市町村會カ納稅者ノ貧富ニ應シテ差ヲ設ケ府縣稅ヲ賦課スルノ議決、戶數割賦課細目、戶數割賦課ノ標準、縣稅戶數割ノ賦課ト其賦課ノ標準ニ付規定ヲ設ケサルトキ、戶數割各戸ノ賦課額、戶數割賦課ト反證、戶數割ノ賦課、戶數割ノ賦課、戶數割賦課ノ標準、戶數割ノ賦課、戶數割ノ賦課、戶數割賦課ノ細目ト村會ノ議決ニ一任、同一縣内ニ於ケル住民ノ轉籍、縣稅賦課ノ細目ト町村會ノ議決方法、熊本縣縣稅賦課規則ト戶數割賦課ノ等級、市ニ現住セサル者ト縣稅ノ賦課、縣會ノ議決

ヲ經テ規定セラレタル縣稅賦課規則ト關係町村會ノ議決、縣稅賦課規則ト課稅ノ權衡、府縣内ニ一戶ヲ構ヘサル者ト戶數割、地方稅規則ト旅行者ノ留守居、縣稅戶數割賦課處分取消、戶數割賦課方法ト戶主他ニ寄留シ家族ニ於テ戶主ノ財產ヲ處理シアルトキハ戶主ノ財產ヲ家族ノ分限ニ合算賦課、稅務署ニ於テ決定シタル最近所得、戶數割ノ賦課、縣令所定ノ期限後議決ト賦課、縣稅戶數割ノ賦課ト貧富ノ程度ヲ參酌シタル町村會ノ議決、收入及貧富ノ程度前年度ヨリ低減セル場合ト町村會ノ議決ニヨリ等級ヲ昇セタル賦課、戶數割等級、構戶ノ事實、構戶ノ事實、村會ノ賦課等級編制

第十二條..... 〇四五

一、物品販賣業..... 〇四五

營業稅科目及標準區別..... 〇四五

ノ仕出ト課稅、飲食物ト販賣業、酒造家ノ原料買入ト課稅、印刷屋、足袋屋ト販賣業、所有ヨリ採取ノ原料ト販賣業、停車場内ノ店舗ト課稅、有價證券、株券、債券ノ買入ト課稅、營業稅法第二條ト店舗トノ關係、菓子煙草ノ出賣子ト從業者、屠畜業ト販賣製造業ト販賣業ノ範圍、蕎麥、饅頭、餅團子類ノ陳列販賣ト業別、製造業者ノ小賣ト課稅、同一ノ營業ノ意義、會社ノ營業開始、賣藥請賣ト課稅、天然水營業者ト課稅、茶葉ト課稅、行商ノ賣上金ト店舗ノ賣上金、貸座敷業者ノ飲食物販賣貸席ト課稅、藥劑師ノ調劑販賣ト課稅、無記名有價證券ノ賣入ト課稅、營業場ノ收入ト行商トノ收入、新聞紙ノ販賣取次ト營業稅、本店ヲ有スルモノ、巡航販賣ト課稅、電氣ノ買入ト製造業ノ範圍、官報販賣所ト營業稅、銀行業カ有價

賦課取扱ノ件、醬油酒造混成酒造營業者ニシテ營業稅法ノ課稅要件ヲ備ヘサルモノニハ縣稅ヲ賦課スル件、同上各郡市長通牒ノ件、度量衡ノ販賣業ニ對シ縣稅ヲ課スル件、通脫稅取締ニ關スル件、賦課上取扱ノ件、納稅義務者中現住不明ノモノ發見報告件、蠶種販賣業者氏名報告方ノ件、縣稅營業稅賦課ニ關スル件、些少ノ物品販賣ノ意義、豆芽シト製造業、販賣營業ヲ爲スニアラサレハ營業稅ナク又ハ附加稅ナシ、仕入業ヲ爲ス外國人ト府縣稅賦課、賦課年度區分、營業稅徵收處分取消、縣稅賦課取消請求ノ訴願、營業稅ノ課稅標準、一定ノ場所ニ於ケル營業ト賦課營業稅ノ賦課、支店ニ對スル村稅ノ賦課、附加稅ノ賦課、委託販賣ト課稅、營業稅法第二十一條ノ主意、營業稅ノ賦課、物品ノ製造販賣ヲ常トスル者、料理

證券ノ買入販賣ト銀行業ノ範圍、蠶種製造、販賣者ノ營業稅、物品製造、販賣業ヲ常トスル者、..... 〇六〇

二、牛馬賣買業..... 〇六〇

牛馬商ニ關スル件..... 〇六〇

三、繭生糸屑物賣買業..... 〇六一

生繭賣買業者住所氏名報告方ノ件..... 〇六一

廢業ノ意義、廢業ト日時..... 〇六一

四、質屋業..... 〇六一

營業稅ノ課稅、同上、同上..... 〇六一

五、物品貸付業..... 〇六二

營業稅法第二條ノ意義..... 〇六二

六、運送業..... 〇六四

營業稅科目業名及標準區別拔萃、渡船及渡橋業ニ縣稅ヲ課スル件、郡市長委任條件ニ關スル願届差出方、郡市長委任條件拔萃、臨時傭人ノ計算方ニ關スル件、碇泊船ト波止場トノ運搬ト課稅、鐵道業ト

收入額、鐵道業收入種目、運送業、營業場

七、請負業..... 〇六六

營業稅科目業名及標準區別拔萃、賦課取扱方ノ件、請負業、請負業ノ意義、他人ニ雇ハレ給料ヲ受クルモノト請負業、大工、左官等ニシテ一定ノ額ヲ定メ工事ヲ爲スモノト請負業、請負業ト營業場、胞衣、火葬ノ業ト課税、請負業ノ請負金額生滿ノ乾燥ト請負業、人畜ノ死体火葬ノ請負業ト課税、製板行爲ト請負業、請負業ノ性質ヲ有スル業体課税、賃職業ト請負業、請負業ノ營業場意義、請負業ノ科目

八、宿業..... 〇六九

營業稅科目業名及標準區別拔萃、木賃宿ト課税、炊事下婢ト從業者

九、兩替業..... 〇七〇

十、周旋業..... 〇七〇

營業稅科目業名及標準區別拔萃、賦課取扱方ノ件、家屋貸付媒介家賃ノ取立ト周旋業、移民取扱ト周旋業

十一、仲立業..... 〇七二

營業稅科目業名及標準區別拔萃、取扱所ト仲立業、市場ノ商取引仲立業、市場商取引ト課税

十二、問屋業..... 〇七二

營業稅、科目業名及標準區別拔萃、無記名有價證券ノ賣買ト問屋業、問屋業、倉庫業者ノ資金貸與立替金ト課税

十三、代理業..... 〇七三

營業稅科目業名及標準區別拔萃、代理店ト課税、銀行業者ノ勸業債券取扱代理店本銀行ノ國債事務處辨ト課税

十四、信託業..... 〇七四

營業稅科目業名及標準區別拔萃、信託業者ト財產權ノ關係、手形ノ代理取立貸付

ト信託業

十五、藝妓置屋..... 〇七四

營業稅、科目、業名及標準區別拔萃、置屋稅徵收方ノ件、置屋稅賦課手續、置屋稅ノ賦課ニ關スル件

工業

一、製造業..... 〇七五

營業稅科目業名及標準區別拔萃、賦課取扱方ノ件、度量衡ノ販賣製作ニ對シ縣稅ヲ賦課スルノ件、蠶種ノ製造販賣業者ニ對シ縣稅ヲ課セサル件、薪炭ノ製造販賣者ニ縣稅ヲ課スルノ件、營業場ニ關スル件、支店出張所ノ存在ト營業稅ノ賦課、鐵道業者ノ車輛製作場ト營業場トノ區別營業ノ繼承、營業稅法第二十一條ノ注意、物品製造販賣業ヲ常トスル者、酒造家ノ他酒買入ト賦課、印刷屋、足袋屋ト課稅スル種目、賣藥製造業ト課稅、製造場外

ノ卸賣ト課稅、製造場ニ外ノ小賣ト課稅杜氏ト勞務者ノ區別、自國製茶ト課稅、煙草製造業者ノ場外作業ト課稅、買鑛製鍊ト課稅、鑛業法第八十二條ノ解釋、電氣業者ノ電氣買入供給ト課稅、請負ノ性質ヲ有スル業體ト課稅、自製蠶ト課稅、

二、印刷業..... 〇八二

三、寫真業..... 〇八二

四、職工..... 〇八二

營業稅科目業名及標準區別拔萃、蹄鐵工ニ對シ工業稅ヲ課セサル件、賦課取扱方ノ件、煙草製造職工ニ課稅方ノ件、鑛業從事者區分ノ件、煙草製造職工ノ課稅方、國有鐵道製作工場ノ職工ノ課稅方、職工稅課稅方、同上、鑛夫ノ意義、杜氏ト從業者、請負業外ノ職工種別、職工ニシテ請負業トナル場合、製技行爲ハ請負業、賃職業ト請負業、請負業ニ該當スル種目、

第十三條

- 一、料理店業……………の八七
- 二、飲食店業……………の八八
- 營業稅雜種稅目業名及標準區別拔萃、賦課取扱方ノ件、同上ノ件、通脫稅取締ニ關スル件拔萃、料理店業ノ女雇人ノ異動通知方ノ件、料理店業國稅營業稅ヲ納ムルモノニ縣稅賦課方ノ件、飲食店稅ノ賦課ニ關スル件、料理ノ仕出專業ト課稅種目、從業者ノ區分、飲食物ノ販賣ト課稅、廢業ノ意義、飲食物ノ店頭陳列販賣ト物品販賣業、天然水營業者ト課稅科目、貨座敷業者ノ物品販賣ト課稅、廢業ノ日時、
- 三、席貸業……………の九三
- 雜種稅科目業名及標準區別拔萃、貨座業者ト席貸業料理店業、席貸業ノ意義、劇場ト席貸業、貨座敷業ト席貸業、劇場ト席貸業、

- 四、湯屋業……………の九五
- 雜種稅科目業名及標準區別拔萃、營業許可ノ際郡市長へ通知方ノ件拔萃、湯屋業稅課稅方ノ件、
- 五、理髮業……………の九六
- 賦課取扱方ノ件、理髮人稅ト給料ヲ受ク理髮職工トノ課稅方
- 六、代書業……………の九七
- 營業許可ノ際郡市長へ通知方、代書業稅ノ賦課ニ關スル件
- 七、遊藝師匠……………の九八
- 八、遊藝稼人……………の九八
- 九、俳優……………の九八
- 十、相撲行司共……………の九八
- 他府縣ニ於テ納稅ヲ爲ス相撲遊藝稼人其他ニ對シテハ出稱地ニテ課稅セサル件、遊藝稼人ノ課稅方ノ件、通脫稅ノ取締ニ關スル件拔萃、賦課取扱事項拔萃、

- 十一、藝妓酌婦共……………の一〇〇
- 雜種稅科目業名及標準區別拔萃、營業許可ノ際郡市長へ通知方拔萃、藝妓稅ニ關スル件、藝妓稅賦課手續、藝妓稅ノ賦課ニ關スル件、藝妓稅ノ課稅方
- 十一ノ一、傭人……………の一二
- 營業稅雜種稅科目業名及標準區別拔萃、傭人ニ關スル件、營業許可ノ際郡市長へ通知方傭人稅ノ課稅方ノ件
- 十二、幫間……………の二三
- 十三、演劇……………の二三
- 十四、興行……………の二三
- 神佛祭典慈善ノ爲ニスルモノ課稅セサル件、營業許可ノ際郡市長へ通知方拔萃、演劇興行稅ノ試課ニ關スル件
- 十五、狩獵……………の三四
- 狩獵稅賦課取扱ノ件、營業許可ノ際郡市長へ通知方、狩獵者ニ免狀ヲ下付シ其異

- 動處理方ノ件、他府縣ニ於テ納稅ヲ爲ス狩獵者ニ課稅セサル件、狩獵稅附加稅制限ノ件
- 十六、屠畜……………の二〇六
- 營業許可ノ際郡市長へ通知方、屠畜稅ハ屠殺前ニ徵收スルノ件、屠畜稅ハ食用ノ爲メ屠殺スル牛馬羊豚ハノミ課稅スル件、自家用ノ屠畜ニ對シ課稅スルノ件、屠畜牛ノ年齡算定方、屠畜稅賦課ニ關スル件、屠畜稅ノ賦課、屠畜稅ト納稅義務者、屠畜稅ニ關スル件、屠畜業者ノ屠殺ト課稅市
- 十七ノ一、貸金穀……………の二〇九
- 賦課取扱事項、貸金稅ニ關スル件、貸金穀形ノ賦課ニ關スル件、營業稅ノ課稅、同上、兩替店ノ手数料ト金錢貸付業、代理店ト信託業、問屋業倉庫者ト金錢貸付業、金錢ノ融通手数料ト金錢貸付業

十七ノ二、貸家.....の一二二  
 貸家税ノ賦課ニ關スル件、貸家税ノ課税標準ノ件、貸家税課税方ノ件、貸家標準計算方ノ件  
 十八ノ一、動力使用.....の一二四  
 賦課取扱事項沿革、營業許可ノ際郡市長ニ通知方、挽臼ニ動力税ヲ課セサル件、工業費用ノ物件ヲ標準トシテ縣稅賦課セサル件、工業用ノ物件ヲ標準トシテ縣稅ヲ課セサルノ件、動力使用税ニ關スル件照會、動力使用税増率ニ關スル回答、器機機關等ニ對スル課税ノ件通牒、  
 十八ノ二、建物建築.....の一二七  
 新築増築改築其ノ他工物ノ區分、建物建築ニ對スル課税方ノ件、流失建築ニモ課税スル件、産業組合ノ建物ニハ課税セサル件、買收土地ニ建設シアル建物ニ課税方ノ件、建物建築税ノ賦課ニ關スル件、同

郵便局舎ニ建築ヲ課税セサルノ件、私立學校ノ建物ニ課税セサルノ件通牒、同、同、葺草ニ關スル件、建築税ノ課税方ノ件、家屋ノ幾部ヲ公用ニ供スル場合ハ町村稅ノ課税、府縣稅及市町村稅ノ免除物件、祠宇佛堂ノ意義、教會所構内ニ建設セル宗教教授用ノ建物ト課税、私立學校ト府縣稅ノ賦課、郵便法第七條ト地租條例第四條第一項第一號ノ但書トノ關係、他ノ町村内ニアル市町村有土地家屋ト課税、商業會議所ト公共組合、商業會議所ノ土地家屋ト課税、公用ノ意義、官舎ト家屋稅トノ賦課、直接宗教ノ用ニ供スル建物、學術慈善用建物、直接營業用ノ工作物ハ府縣稅ノ賦課、寺院ノ用ニ供スル土地、同業組合ノ性質  
 十九、劇場.....の一二八  
 劇場ト席貸業、劇場ト席貸業

二十、人寄席.....の一二八  
 二十一、遊技場.....の一二八  
 雜種稅科目業名及標準區別沿革  
 二十二、遊覽所.....の一二九  
 營業許可ノ際郡市長ニ通知方ノ件  
 二十三、市場.....の一二九  
 雜種稅科目業名及標準區別沿革、營業許可ノ際郡市長ニ通知方ノ件、國稅營業者ノ使用スル場所ニ縣稅市場稅賦課ノ件、縣稅市場稅ノ賦課、同、市場稅ノ賦課、市場ノ商取引ト仲立業  
 二十四、水室.....の一二三  
 營業許可ノ際郡市長ニ通知方ノ件沿革、賦課取扱事項沿革  
 二十五、屠畜場.....の一二三  
 賦課取扱事項沿革  
 二十六、法人建物.....の一二四  
 法人建物ヲ課スヘキ建物異動ノ際課税方

ノ件、法人建物稅課税方ノ件、法人建物ノ種別區分、直接營業用ノ工作物ト府縣稅ノ賦課、商業會議所ト公共組合  
 二十六ノ一、倉庫.....の一二六  
 營業ノ雜種稅科目業名及標準區別、倉庫稅算定方ノ件、倉庫稅賦課ニ關スル件、倉庫稅ノ隨時トシテ徵收スル場合  
 二十七、船.....の一二七  
 雜種稅科目業名及標準區別沿革  
 二十八、車.....の一二七  
 雜種稅科目業名及標準區別沿革、官用ノ船舶車馬ヘハ地方稅ヲ課セサル件、皇族所有ノ馬車ハ地方稅ヲ課セサル件、他管ヨリ船車賣買讓渡ノトキ取扱方ノ件、同ノ件各縣ニ通牒、公用ニ供スル船車ニ關スル件、賦課取扱ノ件、徵發物件ニ課税セサル件、車臺新調ノモノニ課税方ノ件、産業組合ノ物件ニ課税スル件、小船ト遊

船ノ區分、車積計算ニ關スル件、船車ノ烙印ニ關スル件、荷積車體區分ニ關スル件、荷積馬車荷積車課稅方ノ件、漁船ノ課稅方ノ件、西洋形船及日本形船ノ形體區分、一定ノ年度ニ於テ船舶ヲ縣沿岸ノ航行ニ配用シタル事實ト課稅方、所謂定繫所ト船舶航行ノ本據、他府縣ニ於ケル納稅事實ト船稅ノ賦課

二十九、水 車..... 〇一四五

郡市長委任條件拔萃、郡市長委任條件ニ關スル願書届出方、水車ノ賦課

三十、牛..... 〇一四六

三十一ノ一、馬..... 〇一四六

牛馬稅納入濟否等報告方ノ件、營業許可ノ際郡市長ニ通知方、賦課取扱事項拔萃、乳牛稅ニ關スル件、賦課額三十錢以上ノモノ課稅方ノ件、牛馬稅賦課ニ關スル件、牛馬稅ニ關スル件

三十一ノ二、畜犬..... 〇一四九

畜犬ノ課稅方ノ件、賦課額三十錢以上ノモノ課稅方ノ件、畜犬取締ニ關スル件、畜犬稅賦課ニ關スル件、畜犬取締ニ關スル件

三十一ノ三、自動車..... 〇一五一

三十二、自轉車..... 〇一五一

他管ヨリ船車ヲ賣買讓渡ノトキ取扱方ノ件、同上ノ件、各縣ニ通知、賦課取扱方ノ件、自轉車鑑札交付手續、自轉車鑑札交付手續、自轉車異動通知書ニ鑑札番號記載方ノ件、執達吏役場ノ物件ニ課稅方ノ件、三等郵便局ノ物件ニ課稅方ノ件、自轉車取締ニ關スル件、自轉車鑑札ノ再交付者ノ氏名報告方ノ件、自轉車ノ免稅鑑札交付方ノ件、公用專用ノ自轉車ニ課稅方ノ件、公用自轉車ノ區分ノ件、自轉車取締及課稅方ニ關スル件、自轉車鑑札取扱方

ニ關スル件

三十二ノ二、炭竈..... 〇一五九

產物賣拂ノ際通報方ノ件、炭竈調査資料ニ關スル件、炭竈調査方ノ件、炭竈築造ト土地使用料

三十三ノ一、電柱..... 〇一六〇

電柱稅ハ建設届書ヲ受理セシ市町村ニテ徵收ノ件、電柱稅賦課ニ關スル件、電柱ノ支柱支線ハ標準ニ算入セサル件、市送電線ト市外送電トニ混用電柱ニ課稅方ノ件、電柱稅課稅區分ニ關スル件

三十三ノ二、財産取得..... 〇一六三

財産稅賦課手續、財産取得稅課稅許可ノ件、課稅期間ノ件

三十四、漁 業..... 〇一六六

三十五、採 藻..... 〇一六六

漁業稅採藻稅賦課規則..... 〇一六七

管外漁業者ニ賦課スルヲ得サル漁業種目

ノ件、通脫稅取締ニ關スル件、賦課取扱事項、捕鯨業者ニ對シニ府縣以上ニテ課稅スル場合ノ件、管外來漁者ニ對スル課稅ニ關スル件、浮線漁業者ニシテ打瀬網ノ漁法ヲ模倣シ漁業ヲ爲スモノニ對シテハ打瀬網稅ヲ賦課セサルノ件、漁業臺帳設備ニ關スル件、漁業臺帳様式ノ件、鮫刺網ニ關スル件、捕魚、遊魚者ノ區分ノ件、漁業稅賦課ニ關スル件、採藻稅賦課ニ關スル件、許可又ハ免許ヲ受ケサル漁業ニ課稅ノ件、特定行爲ト其附加稅、管外來漁者ニ課スル漁業稅ト課率、漁業組合ト法人ノ區分

第十三條..... 〇一八一

第十四條..... 〇一八一

第十五條..... 〇一八三

專決處分ニ關スル件、商工業稅ノ市町村課額更正ノ件

第十六條……………一八四

第十七條……………一八五

第十八條ノ一……………一八五

第十八條ノ二……………一八五

第十九條ノ一……………一八六

第十九條ノ二……………一八六

第十九條ノ三……………一八六

第十九條ノ四……………一八七

第二十條……………一八七

第二十一條……………一八七

第二十二條……………一八七

營業税法第三十六條ニ依リ營業税ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課徵收等ニ關スル件、營業税法第三十六條ニ依リ附加スル縣稅ハ會計年度ニ於テ徵收スヘキ國稅額ヲ率トシテ徵收ノ件、營業税附加税ニハ賦課ノ歩合ヲ規定シ差出スヘキノ件、營業稅額稅務署ヨリ郡市町

へ通報方ノ件、營業税附加税ニ關スル件、營業場ニ關スル件、所得稅額稅務署ヨリ郡市長へ通報方ノ件、所得稅附加税ニ關スル件、他府縣ニ於テ所得稅ヲ納ムルモノ、本縣内所得ニ對シ所得稅附加税賦課手續、所得稅附加税ニ關スル件、他府縣ヨリ轉入シタルモノニ對シ所得稅附加税課税ニ關スル件、所得稅附加税賦課取扱ニ關スル件、所得稅調定期日記入方ノ件、(大阪府)同上(長崎縣)同上(神奈川縣)營業税附加税賦課上ニ關スル件、同上ノ件、營業ニ従事スル者區分ノ件、營業税附加税賦課ノ件、取引所營業稅附加税ノ收入科目ノ件、取引所營業稅額通報方ノ件、府縣ノ内外ニ涉リ會計ヲ共通スル本支店ト營業稅賦課ノ振合、明治四十四年勅令第二四一號二條二號ノ營業場ノ意義、發電所ト營業場、支店ニ對スル課税、營業

稅附加税ヲ賦課スヘキ餘地ナキ場合、營業稅附加税ノ歩合ハ國稅ニ依準セシム、歩合許可ノ稟請ニハ關係知事ノ連署ヲ正則トス、府縣稅ノ賦課ト住所滞在府縣以上ニ涉ルモノ、收入、海軍艦艇乗組員中ノ所得稅義務者ト所得稅附加税タル縣稅、營業稅附加税ノ分別、營業ノ意義、營業ノ意義、礦夫ノ意義、支店ト課税、營業ノ賦課、營業稅附加税ノ賦課、營業稅ノ賦課、附加税ノ賦課、所得稅ノ決定、取引所ノ營業

第二十三條……………二〇四

縣稅賦課取扱方ノ件、豆芽シト課稅方、些少物品販賣ノ意義、農業ノ定義

○縣稅賦課規則 (明治三十八年三月十一日縣令第一號)

第一章 總 則

第一條 縣稅ヲ分テ年稅月稅日稅及一時稅ノ四種トス

年稅ハ特ニ規定アルモノヲ除ク外上半年下半年ノ二期ニ分テ賦課ス四月ヨリ九月迄ヲ上半年トシ十月ヨリ三月迄ヲ下半年トス

國稅附加稅及國稅ヲ標準トシテ附加スル年稅ハ前項上半年ノ期間ニ徵收スルモノヲ上半年トシ下半年ノ期間ニ徵收スルモノヲ下半年トス

年額參拾錢以內ノ縣稅(地租割ヲ除ク)ハ前項ノ例ニ依ラス其年額ヲ一時ニ賦課ス齒生系屑物賣買業及飲食店業中氷店專業者ノ稅額亦同シ年稅ノ追加ハ上半年ノ納期日前ハ前項ノ區分ニ依リ上半年ノ納期日後ハ下半年ニ各合算シテ之ヲ賦課ス 但徵收期限ヲ異ニスルトキハ別ニ之ヲ賦課ス

月稅ハ其月毎ニ賦課ス

日稅及一時稅ハ其時々賦課ス

第二條 年稅及月稅ハ其徵收期限ノ屬スル月ノ初日ニ於テ納稅義務ヲ有スルモノニ賦課ス 前項期日前納稅義務ノ消滅シタルモノ及該期日後納稅義務ノ發生シタルモノハ其義務ノ發生又ハ消滅ノ時々賦課ス 但地租納稅者貸家所有者及縣内ニ於ケル物件所有者ノ異動ニ係ル義務發



生消滅ニ關シテハ此限リニアラス

第三條 一期ノ中間ニ於テ納稅義務消滅シタルモノ及新ニ納稅義務發生シタルモノニハ其期ノ全額ヲ賦課ス 但前條第二項但書ニ該當スルモノハ此限リニアラス

縣稅ノ賦課額定リタルモノ納稅義務消滅シ同年度内更ニ同一ノ義務發生シタルモノニハ從前ノ稅額ヲ賦課ス 但同期間ノモノニアリテハ其期ノ縣稅ヲ賦課セス

第四條 左ノ場合ニ於テハ納稅義務ヲ繼承シタルモノト見做ス

- 一 家督相續其他一家内ノモノニ於テ世帯ヲ繼承シタルトキ
- 二 一家内ノ者ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ物件及貸家ノ所有ヲ移轉シタルトキ
- 三 同一ノ場所ニ於テ營業ヲ繼承シタルトキ

○判例 (營業ノ繼承)

製糸營業上從來使用セシ商號ヲ使用シ前營業者ノ未拂金ヲ支拂ヒタル事實等ヨリ觀レハ前營業者ノ營業ヲ繼續シタルモノト認ムルニ充分ナリトス(明四一六判決)

第五條 逋稅脫稅ヲ發見シタルトキハ其稅額ヲ一時ニ賦課ス

逋稅脫稅ノ稅額ハ各其年度ノ賦課方法ニ依リ之ヲ定ム 賦課方法ニ依リ難キトキハ當該年度ノ平均額ニ依リ其平均額ナキトキハ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

○府縣稅徵收法ニ依リ賦課洩或ハ脫稅者發見ノトキ追徵ノ件

(二十四年八月十日 五日內務省通牒)

府縣稅徵收法ハ二十四年度所屬ノ徵稅ヨリ之ヲ施行ストアルヲ以テ二十三年度以前ニ屬スル賦課洩或ハ脫稅者發見セシトキハ假令十數年經過ノ後ト雖モ之ヲ追徵スルヲ得 前項追徵金ハ雜收入ニ編入シ交附金ハ下付ヲ要セス

(本文徵收法トアルモ同法ハ三十三年三月廿九日改正セラレ現今ハ府縣制第百十六條第三項該當)

第六條 既ニ賦課徵收シタル縣稅ハ特ニ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ還付セス

第七條 市町村會ニ於テ議決スヘキ事項ニシテ規定ノ期間内ニ議決スルヲ得サル特別ノ事情アルトキハ縣參事會ノ議決ヲ經テ其期限ヲ延期スルコトヲ得

○賦課方法ノ議決範圍ノ件

(大正二年十月十三日地第六五六三號 內務部長ヨリ本吉郡長ニ回答)

町村會ニ於テ縣稅ノ賦課方法ヲ議決スルニ當リ各人各個ノ課額等級ヲモ議決スヘキモノナルヤ否ノ件ニ付電報照會相成候處右賦課方法中納稅義務者ノ賦課等級及課額ヲ算定スルノ方法ヲ規定シタルトキハ一人毎課額及等級ノ議決ヲ要セサル儀ニ有之候條此段及回答候也

○實例

(府縣第百九條ノ議決ヲ爲ササルトノ意義)

府縣制第九條ニ市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其議決ヲ爲ササルトキアル中ニハ市會町村會カ不成立ノ爲メ期限内ニ議決ヲ爲スニ由ナクシテ爲ニ議決ヲ爲ササリシ場合ヲモ包含スルモノトス

(府縣稅ト市町村會)

府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ關係市町村會ニ委任スルコトヲ得メト雖モ水利土功會又ハ區會ニ委任スルコトヲ得ス

○專決處分ニ關スル件 (明治三十八年四月廿九日決裁)

參事會ニ於テ議決スヘキ左記事件ハ知事ニ於テ專決スルコトヲ得 但縣參事會開會中ハ此限リニアテス

二、縣稅賦課規則第七條ニ關スル事項

三、縣稅賦課規則第十五條第二項但書ニ關スル事項

第二章 地 租 割

第八條 地租割ハ年稅トシ地租額ヲ標準トシ地租ヲ納ムル義務ヲ有スルモノニ賦課ス地租割ノ課率ハ毎年度豫算ニ於テ之ヲ定ム

第九條 地租割ハ第二條第一項ニ依リ賦課シタル後ハ地租額ニ異動アルモノ之ヲ増減セス

○地租額稅務署長ヨリ郡長へ通報方ノ件 (明治三十六年七月內收第三八九六號)

(知事ヨリ仙臺稅務監督局長へ照會)

會テ地租額通報方照會ニ對シ明治三十三年二月二十三日仙直第六〇號御回答有之候處今般本縣地租割ハ四月一日十二月一日現在地租ヲ納ムル義務ヲ有スル者ニ賦課スルコトニ改正候ニ付テハ右現在地租額町村別ヲ以テ稅務署ヨリ各所屬ノ郡長へ仙臺市ニ屬スル分ハ本廳ニ直接通報相成候様各稅務署へ達方御取計有之度候

回 答 明治三十六年七月

右ハ各稅務署ヨリ通報方取計ハセヘク候

○地租割ノ課稅標準計算ニ關スル件 (明治卅五年四月十六日地發第)

(七二號內務省地方局長通牒)

本年法律第二十二號適用上ニ關シ左ノ通決定相成候條爲念通牒ス

一 土地臺帳ハ法律第二十二號第七條ニ依リ漸次更正セラル、ニ付其更正以前ニ在テハ地租割ノ課稅標準タル地租額ハ臺帳ニ登錄ノ各人納租總額ニ付同號第一條ヲ適用シ算出セラルヘシ

○同上ノ件 (明治卅五年五月六日內五收第一五五六)

(九號內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

土地臺帳ハ本年三月法律第廿二號第七條ニヨリ漸次更正セラル、ニ付其更正以前ニ在リテハ地租割ノ課稅標準タル地租額ハ臺帳ニ登錄ノ各人納租總額ニ付同法第一條ヲ適用シ算出セラルヘク爲念此段及通牒候也

○地租割戸數割ハ分納ニアラサル件 (明治卅五年四月四日地甲第三)

(八號內務省地方局長通牒)

本年法律第二十二號第二條及第四條ノ疑義ニ付左ノ通廣島縣ニ回答候間爲念此段通牒ス

一 地租割戸數割ニシテ四月一日十月一日ノ現在ニ依リ賦課スルモノハ分納ニアラス

一 賦金ハ公課ニ包含スルモ使用料ハ之ニ包含セズ

○同上ノ件

(明治卅五年四月十七日內務省第一三  
一八號內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒)

課税標準額及税額計算ニ關スル件(本年二月法律第二十二號)ヲ以テ發布相成候所【三十三年十一月本縣令第二號地租割戸數割賦課規則】ハ同法第二條ノ所謂分納ニアラサルヲ以テ第二條ヲ準用スヘキ限リニ無之候條每納期ニ於テ第一條ニ據リ處理相成可然ト存候爲念此段通牒ス

○神佛二教以外ノ宗教ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シ課税セシメサルノ件

(明治卅二年九月十三日地  
甲第七二號內務次官通牒)

今般本省令第四十一號發布相成候ニ付テハ爾今現行地方制度及衆議院議員選舉法等ニ於ケル選被選擇ノ制限ニ關スル規定中諸宗教師トアル中ニハ神佛二教以外ノ宗教々師ヲ包含スルモノト解釋スヘキ義ニ有之又市制第九十七條町村制第九十七條ノ社寺トアル中ニハ嚴格ニ之ヲ解釋スルトキハ神佛二教以外ノ宗教ヲ包含セスト雖トモ立法ノ精神ハ廣ク一般ノ宗教ヲ包含スルノ趣旨ナルニ付宗教ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニシテ同條ノ規定ニ準スヘキモノニ對シテハ神佛二教以外ノモノト雖モ可成市町村稅ヲ賦課セシメサルノ方針ヲ以テ御措置相成度此段及通牒候也

○神佛二教以外ノ宗教ノ用ニ供スル土地家屋等ニシテ社寺ニ準スヘキ者ニ對シ

府縣稅及市町村稅ヲ賦課セサル件

(明治卅五年四月二十三日地甲  
第四二號內務省地方局長通牒)

明治三十二年九月地甲第七二號通牒中宗教ノ用ニ供スル土地家屋ニ關シ左記之通り決定相成候條爲御心得

一一八

此段及通牒候也

一一九

客年九月十三日地甲第七二號ヲ以テ神佛二教以外ノ宗教ノ用ニ供スル土地家屋等ニシテ社寺ニ準スヘキ者

(明治三十三年一月二十二日東京府  
知事ヨリ內務省地方局長ヘ照會)

ニ對シテハ府縣稅及市町村稅ヲ賦課セサル様措置スヘキ旨內務次官ヨリ通牒ノ趣モ有之候所基督教ニ就テハ果シテ如何ナル種類ノ土地家屋等ヲ社寺ニ準スヘキ哉實際ノ取扱上其困難ヲ感スル次第有之候抑該教ニ於テ宗教ノ用ニ供スル家屋ヲ類別スルニ大凡二種類有之一ハ教會堂又ハ聖堂ト稱シ一ハ說教所又ハ講義所ト稱ス前者ハ禮拜又ハ儀式ヲ行フ場所ニシテ教規ニ從ヒ一定ノ儀式ヲ經テ教用ニ充テ他ノ建物ト區別アリ後者ハ單ニ說教又ハ講義ヲ爲ス所ニシテ二者等シク宗教ノ用ニ供スル家屋ナルモ說教所又ハ講義所ノ如キモノヲ社寺ニ準シ免稅スルハ神佛二教ニ對シ權衡ヲ失シ頗ル穩當ヲ缺クヲ以テ神佛二教ニ屬スル說教所ノ如キモ亦免稅セサルヘカラサルニ至ルヘク就テハ右教會堂又ハ聖堂ト稱スルモノノミヲ社寺ニ準スヘキ者トシ免稅シ其他ノ者ニ對シテハ一切免稅セサルノ方針ヲ以テ措置シ可然哉

回 答 (明治三十五年  
四月二十二日)

右ハ明治三十二年內務省令第四十一號ニ依リ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケ專ラ宗教直接ノ用ニ供スルモノハ免稅相成可然ト被存候右經伺ノ上回答ス

○社寺ニ準スヘキ土地家屋營造物等ニ關シ市町村稅免除ノ件

(明治卅五年五月廿日內一第  
七號內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒)

明治三十二年十月十四日訓第一四二號ヲ以テ神佛二教以外ノ宗教ノ用ニ供スル土地家屋等ニシテ社寺ニ準

スヘキ者ニ對シテハ市町村税ヲ賦課セシメサル様措置スヘキ旨訓令相成候所右ハ明治三十二年七月内務省令第四十一號ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ専ラ宗教直接ノ用ニ供スルモノハ免税スヘキ趣旨ニ有之候條爲御心得及通牒候也

追テ縣税ニ付テモ本文ノ趣旨ニ依リ免税スヘキモノニ有之神佛二教ノ講義所說教所ノ類ニ對シテモ同様免税相成候方可然義ト存候此段申添候也

○水害地方田畑免租處分ニ關スル効果トシテ直ニ府縣稅ヲ减免スヘカラサル件

(明治卅五年十一月廿六日地甲第一一四號内務省地方局長通牒)

明治三十四年法律第二十七號ニ依ル水害地方田畑免租處分ハ特ニ地租ノ徵收ヲ免除セラル、ニ止リ荒地處分ノ如ク地價ノ減消ヲ認定セルモノニ非ス從テ府縣稅ハ直ニ該處分ノ效果トシテ免除セラルヘキモノニ無之又斯カル場合ニ於テ府縣制第百十三條ニ依リ府縣稅ヲ减免セントスル向有之候得共同條ハ納稅者其人ノ資力如何ニ因リ適用セラルヘキモノニシテ直ニ被害ノ事實ニ對シ適用スヘキモノニ無之候條爲御心得此段通牒ス

○同上ノ件 (明治卅五年十二月六日内五收第四五)

(五一號内務部長ヨリ各都長ヘ通牒)

明治三十四年法律第二十七號ニ依ル水害地方田畑免租處分ハ特ニ地租ノ徵收ヲ免除セラル、ニ止マリ荒地處分ノ如ク地價ノ減消ヲ認定セルモノニアラサレハ縣稅ハ直ニ該處分ノ效果トシテ免除スヘキモノニ無之且府縣制第百十三條ニ依リ减免出願ノ場合ニ於テモ同條ハ納稅者其人ノ資力如何ニ因リ適用スヘク直ニ被

害ノ事實ニ對シ適用スヘキモノニ無之候條爲御心得依命此段及通牒候

○公用地ノ課稅方ノ件 (明治三十七年十二月二十八日地甲第二三四號地方局長通牒)

(明治三十八年一月十一日内一號第一四九號各都市長ニ通牒)

明治三十三年法律第十九號府縣、郡市町村其他ノ公共團體ノ所有地ニシテ其公用ニ供スルモノニ對シ地租及公課ヲ免スル件ニ關シ大藏省主稅局長ヨリ別紙ノ通り群馬縣知事ニ回答相成候ニ付爲念及回付候也

(別紙) (明治三十七年十二月十六日)

(主稅局長通牒)

本月九日地第一四五號御照會ノ件公用ニ供スル土地ハ本年法律第十二號第一條ニ依リ免租セラルヘキ義ニ有之カ除現ハ所有者ノ申告又ハ官廳ノ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ分界トスルノ取扱ニ有之候條此段及回答候也

○稅額算出方ノ件 (明治四三年地第三二八二號内)

(内務省地方局長通牒)

四十年法律第三十一號準用ニ關シ東京府ノ問合ニ對シ左記ノ通回答致候爲御參考及通牒候也

(明治四三年四月東京府回答)

本年三月法律第二十七號ヲ以テ四十一年法律第三十七號中改正相成候結果地租附加稅ハ宅地、田畑、其他ノ土地ノ區別ニ依リ賦課率ニ等差ヲ付スルコトニ相成候ニ付テハ右附加稅ハ各賦課率ニ依リ算出シタル金額ノ合計ニ於テ四十年法律第三十一號ノ適用ヲ受クヘキ義ナルヤ將又各別ニ適用スヘキ義ナルヤ

回 答

前段御見込ノ通ト存候

○地租割追加率賦課方ノ件

(明治四十三年十一月十日地第九二二九號)  
ヲ以テ内務部長ヨリ郡市長ヘ通牒

本年度縣稅地租割追加ハ縣稅賦課規則第一條第五項ニ依リ下半年ニ合算シテ賦課スルコトニ相成候處右ハ既定課率ノ折半額ト追加課率トヲ合算シ算出ノ上賦課候様御取扱相成度此段及通牒候也

○荒地免租ノ土地ニ對スル地租割下戻ノ件

(明治四十四年六月十六日地第七一四四號)  
内務部長ヨリ伊具郡長ニ回答

伊具財第一五三九號ヲ以テ客年八月ノ水害ノ爲地租割下半年賦課後ニ於テ荒地免租ト爲リタル土地ニ對スル地租割ノ减免等ニ關シ照會相成候處地租附加稅ニ關シテハ地租割賦課ノ後ニ於テ荒地免租處分ノ決定ヲ受ケタルモノハ其ノ決定ニ依リ荒地トナリシ當時ニ遡リ地租ヲ課セラレサル土地トナリタルヲ以テ其土地ニ對スル地租割下半年ノ賦課ハ取消シ既納ノ税金ハ還付スヘキモノニ有之候條此段及回答候也

○地租附加稅ニシテ課率ヲ異ニシテ賦課スル場合ニ於ケル端數計算ニ關シ

法律準用ノ件

(明治四十五年七月第一六二號)  
内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒

地租附加稅ニシテ地目ニ依リ課率ヲ異ニシテ賦課スル場合ニ於ケル明治四十年法律第三十一號適用ノ件ニ付四十三年四月地第三一八二號ヲ以テ及通牒候處右ハ各課率ニ依リ算出シタル金額ノ合計ニ於テ該法律ヲ適用シ差支無之候條自今右様御取扱相成可然此段及通牒候也

○地租割ニハ隨時ヲ課セサル件

(大正元年九月廿一日地第二二二二號)  
内務部長ヨリ栗原郡長ニ回答

栗財第四〇號ヲ以テ縣稅地租割賦課ニ關スル件照會相成候處右地租割ハ縣稅賦課規則第二條及第九條ニ依リ賦課シタル後ハ地租額ニ異動アルモ増減セサルモノナルヲ以テ地價ノ設定等ニ依リ有租地ト爲リ又ハ地

租額ニ異動ヲ生シタルモノアルモ之ニ對シ隨時ノ賦課ヲ爲スヲ要セサル義ニ候條此段及回答候也

(別紙大正元年十一月栗財第五三〇號栗原郡長照會)

縣稅地租割ハ本年七月六日第一六二號通牒ニ基キ各課率ニ依リ算出シタル金額ノ合計ニ於テ法律第三十一號ヲ適用賦課算出スルトキハ地租目ノ内譯ヲ付スルモ其ノ内譯ハ元來計金ニ符合セサル無意味ノモノナルヲ以テ徵稅令書ニ添付スル内譯書及徵稅傳令書發付報告書中地目毎ノ内譯ヲ付セス取扱可然乎此段及照會候也

追テ收入決算書モ課稅標準欄ニノミ宅地租ト其ノ他ノ地租トヲ内譯區分掲載シ賦課額及決算額ハ本文同様内譯ヲ付ナス可然併セテ御回示相成度申添候也

○地租割内譯ヲ徵稅令書ニ記載スルノ件

(大正元年十二月六日縣第一八七八號)  
内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒

縣稅地租割ハ法律第三十一號ヲ準用シ計算スル結果稅額ト内譯金額符合セサル件ニ付栗原郡長照會ニ對シ別紙ノ通回答候條爲念此段及通牒候也

(別紙大正元年十二月六日縣第一八七七號内務部長回答)

縣稅地租割ハ法律第三十一號ヲ準用シ計算スル結果徵稅令書及徵稅傳令書發付報告書ノ稅額ト其ノ内譯金額ト符合セサルヲ以テ内譯ノ記載ヲ省略スル件ニ付照會相成候處右ハ假令計算上符合セサルモノトスルモ内譯ノ記載ヲ要スル義ニ有之候條此段回答候也

追テ收入決算書滯納者調及滯納處分引繼書等ニ關シテハ本文同様内譯ノ記載ヲ要スル義ト御承知相成

度申添候也

○皇族ノ所有地ノ土地ニ關スル件 (大正二年九月内〇第一六六三號)  
ヲ以テ各郡市長ニ通牒

地租地租附加税及段別割ニ關スル法規ヲ皇族ノ所有ノ土地ニ適用スルノ件本年七月二十九日皇室令第八號ヲ以テ規定セラレ候ニ付テハ左ノ通り御承知相成度候也

(大正二年九月五日大藏省主稅局長内務省地方局長ヨリ本縣ニ通牒)

- 一、皇室令ノ所謂地租附加税及段別割ニ關スル法規トハ地租附加税及段別割ノ賦課免除ニ關スル法規ハ勿論之カ徴收ニ關スル法規ヲモ指稱スルモノトス
- 二、萬一、納期限内ニ納付セサルコトアルモ規定ニ依リ督促狀ヲ發シテ督促ヲ爲スカ如キコトナク納稅管理人ニ對シ單ニ納付方ヲ注意シ仍不納ナル場合ニ於テモ宮家令又ハ其代表者ニ交渉シ決シテ強徴ノ手續ヲ爲ササルコト
- 三、納稅管理人ヲ要スル場合ニ於テハ可成之ヲ置クコトニ交渉スルコト

○災害ニ因ル收穫皆無地免租ニ關スル件

(大正三年九月二日局直第一四四號仙臺稅務監督局長ヨリ宮城縣ニ通知)  
(大正三年九月四日地第五五一七號ヲ以テ各郡市長ニ通知)

當局管内ニ於ケル麥、豆二作ノ畑地ハ從來大豆ヲ主作物ト看做シ麥ノ收穫アルモ大豆カ災害ニ因リ收穫皆

無ニ歸シタルトキハ地租ヲ免除又ハ延納シ來リ候處爾今二毛作以上ノ畑地ハ一年ヲ通シタル收穫價格ノ十分ノ七以上ノ價格アルモノヲ主作物トシ其收穫皆無ナルトキハ之ヲ免租シ又其ノ主作物ト爲スヘキモノナキトキハ一年間ヲ通シテ收穫皆無事實ヲ定ムルコトニ變更相成候條御了承相成度爲念右及通牒候也

○財產取得稅賦課ニ關スル件 (大正七年四月二十七日地第二六三三號)  
(内務部長ヨリ栗原郡長ニ回答)

共有地分割ノ場合ニ於ケル縣稅財產取得稅賦課ノ件栗財第一五六五號御照會相成候處右ハ御見込ノ通賦課スヘカラサルモノト存候此段及回答候也

○同上ノ件 (大正七年四月廿日栗財第一五六五號)  
(栗原郡長ヨリ内務部長ニ照會)

共有土地分割所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルモノニ對シ縣稅賦課規則第十九條ノ三ニ依リ取得稅ヲ賦課スルハ穩當ナラサル哉ノ嫌有之候條貴見承知致度此段及照會候也

○縣有地ニ對スル納稅事務取扱方ノ件 (明治三十七年五月六日訓令第四十號)  
(内務部警察部所管長町村役場ニ訓令)

縣有土地ニ對スル納稅事務ハ其土地所在地ノ町村長ヲシテ管理セシム  
町村長ニ於テ縣有土地ニ對スル納稅告知書(國稅ノミ)ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ別記様式ノ請求書ヲ知事ニ提出スヘシ

但シ所管長ノ主管ニ屬スルモノハ各其所管長ニ提出スヘシ

前項現金ノ交付ヲ受ケ納稅了シタルトキハ直ニ其領收證書ヲ縣廳又ハ所管長ニ送付スヘシ  
本令ニ依リ提出スル文書ハ所轄郡役所ノ經由ヲ要セス本令ニ於テ所管長ト稱スルハ縣會計規程ニ於テ所管

長ト稱スルモノヲ謂フ

(別記)

請求書

一金

明治何年度田租又ハ何々 第何期

但何街道又ハ何堤防、何々敷地、何町村大字何、字何、何園田又ハ畑、何々、反別何程、地價金何程地租金何程ニ對スル分

右送金相成度候也

年月日

何郡町村長 氏

名印

知事 所管 長 宛

○府縣ノ所有ニ屬スル郡役所敷地免租ノ件

(明治廿六年十月廿三日務甲第一三八號)  
内務省地方局長通牒

府縣ノ所有ニ屬スル郡役所敷地ハ明治三十三年法律第十九號ノ適用ヲ受クヘキモノトシ各稅務監督局長ヘ指示候趣大藏省ヨリ通知有之候間爲御心得此段通牒ス

○實例

(定期ニ徵收スヘキ地租割力隨時徵收トナル場合アリ)

一定ノ納期ニ於テ徵收スヘキ地租割ノ納稅義務ヲ有スル者カ住所又ハ居所不明或ハ徵稅傳令書ノ受取ヲ拒ミタル場合ニ於テハ公示送達ヲ爲サルヘカラス而シテ其公示送達ノタメ徵稅傳令書ノ指定期限ヲ更新

スヘキモノ又ハ更新ヲ要セサルモノアルヘシト雖モ何レモ公示送達期間終了ノ後ニ於テ初メテ徵稅傳令書ノ交付形式ヲ了スルモノナルヲ以テ其公示送達終了日カ本徵收期限ノ經過後トナル場合アルヘシ右ノ場合ハ法令ニ依ル自然ノ結果ナルヲ以テ當然隨時徵收トシテ取扱フヘキモノトス

(公用ノ意義)

(公用)ナル文字ハ之ヲ(公共ノ用ニ供スルモノ)ト併セテ規定シタル場合ニハ其ノ意義ノ狹キハ自ラ明カナルモ本條ノ規定ノ如ク單ニ(公用)トノミ規定セル場合ニハ廣ク公共ノ用ニ供スル場合ヲモ包含スルモノト解ス可キナリ

(免租地ト地租割)

地租ヲ免除セラレタル土地ニ對シテハ當然地租割ヲ賦課スルコトヲ得サルニ依リ本條ニ依リ課稅ヲ爲スノ限ニアラス

(市町村組合町村組合所有地ニシテ公用ニ供スル場合ト免租)

市町村組合町村組合ノ所有地ニシテ公用ニ供スルモノハ市町村ノ所有地ニシテ公用ニ供スルモノト同シク明治三十三年法律第十九號ニ依リ免租地ニ屬ス

(直接公用ニ供スル)個人ノ所有地)

一個人ノ所有ニ係ル土地家屋等ハ直接公用ニ供スルモノト雖モ免除ス可キ限リニ非ラヌト雖モ有料使用ニ非サルモノハ課稅ノ限リニ非ス

(公用ニ供スル火葬地用水敷地等ト課税)

市町村及市町村内一部ノ火葬墓地若クハ用水敷地ニシテ市町村内一部ノ火葬場墓地若クハ灌溉用ニ供スルモノハ直接公用ニ供スル土地ナルヲ以テ市町村税ヲ課ス可キモノニ非ス

(防風水源涵養等ノ保安林ト課税)

防風水源涵養等ノ保安林ハ直接ノ公用ニ供スルモノナルヲ以テ市町村税ヲ課税スルヲ得ス

(商業會議所ノ土地家屋ト課税)

商業會議所ノ土地家屋ハ直接公用ニ供スルモノナルヲ以テ市町村税ヲ賦課ス可キモノニ非ラスト雖モ其敷地建物ニシテ一個人ヨリノ有料借受ナルトキハ其ノ貸主ニ對シ市町村税ヲ賦課シ得ヘキハ論ヲ俟タス

(直接公用ニ供セサル市町村有ノ土地家屋ト課税)

直接公用ニ供セサル市町村有ノ土地家屋カ自己市町村内ニ存在スル場合ニ於テハ之ニ對シ課税スヘキモノニアラス

(他ノ町村ニアル市町村有土地家屋ト課税)

直接公用ニ供セサル市町村所有ノ土地家屋ニシテ他ノ市町村内ニ存スルモノハ其市町村税ノ賦課ヲ受クルハ勿論ナルモ直接公用ニ供スル土地家屋ナルニ於テハ他町村ニ所在スルモノト雖モ課税セラル、モノニ非ス

(家屋ノ幾部ヲ公用ニ供スル場合ノ課税)

自宅ノ幾部ヲ以テ公務取扱ノ用ニ供シ例ヘハ郵便受取所ノ事務ヲ取扱フ室ノ如シ幾部ヲ以テ居住ニ充ツル場合ニ於テ土地家屋共ニ判明セルモノハ其ノ公務取扱ノ用ニ供スル部分ニ對シ課税ヲ爲サス其ノ一半ヲ割シテ居住ニ充ツルモノニ對スル課税ノ方法ハ町村會ノ議決ニ依リテ定ム可キモノトス

(郵便法第七條ト地租條例第四條第一項第一號但書トノ關係)

郵便法第七條ニ所謂郵便専用ノ物件中ニハ舟車馬等ノ如キ動産ニ限ラス不動産タル土地建物等モ包含ス然レトモ其土地カ有料借地ナルトキハ土地所有者ハ其ノ收益ヲ得ルヲ目的トシ偶々其ノ土地ヲ郵便用ニ供スルモノナルヲ以テ郵便専用ノ物件ト認ムルヲ得ス地租條例第一項第一號但書ニ該當スルモノトス

(一部又ハ個人ノ所有地ヲ學校病院等ノ用ニ供シタル場合)

市町村内ノ一部若クハ一個人ノ所有ニ係ル土地ヲ直接公立學校病院等ノ用ニ供シ借地料ヲ受ケサルニ於テハ市町村税ヲ賦課スルヲ得ス

(私立學校ト府縣税ノ賦課)

府縣税ノ免除ハ府縣制第一百十條ニ依リ市町村税免除ノ例ニ依ルヘキモノナルヲ以テ耶蘇教會ノ設立セル校舍ト雖官立公立ニアラサル限リハ免除スヘキ限リニ在ラヌ又誤テ該校舍ニ賦課セザリシ場合ト雖府縣制第十六條第二項ニ依リ時効ニ係ラサル以上ハ遡リテ府縣税ヲ徵課スルコトヲ妨ケサルモノトス

(府縣税及市町村税ノ免除物件)

市町村制第九十七條第一項第二項ノ社寺トアル中ニハ嚴格ニ解釋スルトキハ神佛ニ數以外ノ宗教ヲ包含



セスト雖トモ立法ノ精神ハ廣ク一般ノ宗教ノ用ニ供スル土地家屋等ヲ指示スルモノナルコト毫モ疑ヲ容レズ故ニ神佛二教以外ノ宗教ニ於テ或ハ教會堂ト云ヒ或ハ聖堂ト云ヒ或ハ說教所ト云ヒ或ハ講義所ト云ヒ其ノ付スル所ノ名稱ヲ區々ニシ其ノ使用スル形式亦異レルモノアリト雖モ明治三十二年內務省令第四十一號ニ依リ所轄地方長官ノ許可ヲ受ケ專ラ宗教直接ノ用ニ供スルモノハ總テ免除スヘキモノトス神佛二教ノ說教所及講義所ノ類亦同シ

(神社寺院祠宇佛堂ト課税)

神社寺院祠宇佛堂ハ民有地第一種ナルモ課税ス可キモノニ非ラス

(社寺用ニ供スル民有地)

民有地第一種ニ屬スルモ社寺ノ用ニ供スル土地ハ免税スベキモノトス

(空地空屋ナル官有ノ土地家屋ト舊市制町村制第九十七條)

空地空屋ナル官有ノ土地家屋又ハ收益ノ目的ニアラスシテ貸與シタル官有ノ土地建物ハ舊市町村制第九十七條第一項第一號ニ該當スルモノトス

參照

舊市町村制第九十七條左ニ掲タル物件ハ市税ヲ免除ス

- 一、政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二、社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋

三、官有ノ山林及荒蕪地但官有山又荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限ニアラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免除スルコトヲ得

(所謂特別ノ事情アル者)

住家ノ火災ニ罹リ又ハ水害ノ爲メ土地ヲ荒廢ニ歸シタルノ一時ヲ以テ本條ノ所謂特別ノ事情アル者ニ該當スト云フヲ得ス

(特別ノ事情アル者ノ意義)

特別ノ事情アル者ニハ特別事情ノ其ノ人ニ存スルモノニシテ無資力ナル者ト同様ノ意義ト解ス可キモノトス從テ例ヘバ大地主ノ如キ者ニアリテ假令水害ニ遭遇シ收穫皆無ト爲ルカ如キコトアルモ本條ヲ適用シ府縣稅ノ延期ヲ爲スヲ得サルモノトス

○判例

(私設鐵道用地收用ト免除規定)

私設鐵道用地ノ收用ニ付町村制其他法律勅令中此ノ種ノ租稅ヲ免除スルノ規定ナシ

(明治三七、六、三〇判決)

(寺院ノ用ニ供スル土地)

營造物及家屋ハ町村稅ヲ免除スルノ規定ニシテ寺院ノ所有地タル土地其ノ他ノ財産ニ對シ免税スヘキ規

定ニアラス(明治三六、七、一列決)

(地租割ノ賦課)

地租中田租ノミニ地租割ヲ賦課スルハ府縣制ノ許サ、ル所ナリ(三六、二、二五列決)

(地租ノ免除)

一ケ年敷作アル畑地ニシテ其ノ一作ノ皆無ニ歸シタル場合ノ如キハ明治三十四年法律第二十七號ヲ適用ス(ヘキモノニ非ス(三七、六、二二列決))

(縣稅地租割免除)

災害地地租免除法第一條ニ依ル地租ノ免除ハ唯地租ノ徵收ヲ免除スルニ止マリ地租ヲ消滅セシムルモノニアラス

地租カ存在スル以上ハ現實ニ之ヲ賦課徵收スルト否トニ拘ハラズ附加稅タル縣稅地租割ハ之ヲ賦課シ得(ヘキモノトス(六、三、五列決))

第三章 戶數割

第十條 戶數割ハ年稅トシ現ニ一戶ヲ構フル者ニ賦課ス

同居同炊スルモノト雖トモ經濟ヲ異ニシ獨立ノ生計ヲ營ム實アルモノハ一戶ヲ構フルモノト看做ス

○清國人ニ對シ租稅賦課ニ關スル件

(明治三十二年七月十四日內務大臣  
外務大臣大藏大臣電報聯合)

清國人ニ對シ租稅賦課ノ件ハ他ノ外國人同様取扱取締上ノ諸法令ハ本年七月十七日以後總テ之ヲ適用スル儀ト心得ヘシ

○新條約實施後外國人ニ對シ賦課スヘキ縣稅ニ關スル件

(明治卅二年六月一日〇乙第二三  
五號ノ內務省地方局長通牒)

別紙神奈川縣照會ニ對シ別紙ノ通及回答候條爲御心得此段及通牒候也

(明治三十二年五月廿五日神奈川縣照會)

新條約實施後ニ於テ外國人ニ對シ賦課スヘキ縣稅ニ關シテハ不日開會スル所ノ臨時縣會ニ其收入豫算ヲ附議スヘキ見込ニ有之候就テハ左ノ方法ニ依リ賦課スヘク存候得共一應御意見承知致度候條至急何分ノ御回報相煩度此段及御照會候

一 本縣ニ於テハ從來家屋稅ハ建物ノ廣狹種類及敷地ノ等級ヲ標準トシ賦課シ來リタル所茲ニ外國人居留地ニ於ケル建物敷地ノ地位ヲ定ムヘキ必要ヲ生セリ因テ此際居留地附近ノ市街地及居留地ト稍ヤ相當スル土地ノ地位地租改正ノ當時定メタル地位ヲ指スヲ標準トシテ居留地ノ地位ヲ推定シ以テ建物ノ廣狹種類等ヲ届出シメ之ニ對シ賦課スルモノトス

二 縣稅ノ内家屋稅ハ四月一日十月一日ノ現在ニ依リ賦課スヘキニ依リ本稅ノ賦課ニ關シテハ別段ノ規定ヲ設クヘキ必要ヲ感セサレトモ本縣現行ノ地方稅賦課規則ニ於テハ半途ニ於テ創業就業若クハ課稅物件ヲ所有スルトキハ直テニ營業稅又ハ雜種稅ヲ賦課スヘキ規定ナルモ從來所有若クハ營業ヲ繼續シ居ル者

ニ對シテ新ニ半途ヨリ課税シ得ヘキ明文ナキヲ以テ是等ニ對シ半途ヨリ課税シ得ヘキ規定ヲ設ケ渾テ半途ニ於テ納税義務ノ生シタルモノハ其月分ヨリ賦課徴收スル事ニ定ムル事ニ定ムルモノトス但半途ニ於テ廢業休業又ハ課税物件ヲ所有セサルニ至ルモ既納ノ税金ハ之ヲ還付セサルモノトス

回答

明治三十二年五月三十一日

右ハ御見込ノ通ト存ス

第十一條 戸數割ハ毎年度豫算ニ於テ定メタル一戸ノ平均額ノ年度開始前ニ各市町村前年十二月末日現在戸數第二十三條第一項ノ戸數ヲ除クヲ乘シ得タル金額ヲ以テ其市町村四月一日現在納税義務ヲ有スルモノノ負擔額トス

前項負擔額ヲ各納税義務者ニ賦課スル方法ハ毎年四月二十日迄ニ市町村會ニ於テ之ヲ議決スヘシ  
納税ニ堪スト認ムルモノニハ賦課方法ノ定ムル所ニ依リ戸數割ヲ賦課セサルコトヲ得但第一項ノ負擔額ヲ減スルコトヲ得ス  
新ニ納税義務ノ發生シタルモノ、税額ハ市町村會ニ於テ議決シタル賦課方法ニ依リ之ヲ定ム年度開始後ノ追加戸數割ハ本條ニ依リ定メタル賦課額ノ比例ニ依リ賦課ス

○一戸ヲ構ヘタル者ノ届出方ノ件

明治二八年一月 明治四一年一月  
縣令第三六號 縣令第六六號改正 改正

第一條 縣内ニ於テ一戸ヲ構ヘタル者ハ其ノ市町村内外ノ移轉分家別居等ニ拘ハラヌ總テ其ノ先住所現住所ノ市町村名字番地及其ノ一戸ヲ構ヘタル年月日ヲ記載シ自己ノ所有地ナレハ本人ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ナレハ本人及地主又ハ家主又ハ其ノ地所其ノ家ヲ管理スル者連署シ十日以内ニ其ノ市町村長ニ届出可シ但シ戸籍上ニ關シ法律命令ノ規定ニ依リ市町村長ニ届出ル者ハ別ニ本文ノ届出ヲ要セス

第二條 從來一戸ヲ構ヘタル者ニシテ未タ戸數割又ハ戸別割ノ賦課ヲ受ケサル者ハ明治二十九年一月十五日迄第一條ニ準シ届出可シ其ノ縣稅賦課規則又ハ市町村會ノ議決ニ依リ賦課セサル者ハ此ノ限リニアラス但現ニ賦課セサル者ト雖トモ他日他ニ移轉シ一戸ヲ構ヘタル者ニハ第一條ニ依リ届出可シ

第三條 正當ノ理由ナクシテ第一條第二條ノ期限内ニ届出ヲ爲サル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

○戸數割ヲ賦課スヘキ一戸ヲ構ヘタル者ノ例示ノ件 (明治二八年一月二年訓令第四一號)

(郡市役所町村役場訓令)

戸數割ヲ賦課スヘキ一戸ヲ構ヘタル者トハ左ニ例示スル者ノ意義ナルニ由リ戸籍寄留籍其ノ他ノ書類及狀況ニ依リ調査シ可成無届又ハ逋稅等ナカラシムル様厚ク注意スヘシ

第一 門戸ヲ構ヘテ住居其市町村ニ定籍寄留トモ以下同シ又ハ滞在スル者滞在ハ三ヶ月以上ニ及フモノニ限リ届出ヘキモノトス以下同シ  
但其ノ家屋ハ自己ノ所有ナルト他人公私ノ法人又ハ社寺宗所有又ハ官有官舎等以下同シ縣有郡有公共組合有ナルトヲ問ハス又其ノ住居者滞在者ハ戸主ナルト非戸主戸主ト共ニ居ル家族ニアラスナルト又獨立ノ生計ヲ營ム者農商工其ヲ爲ス者又ハ官公私ヨリ給料手當等ヲ受クル者トモ以下同シナルト他人ノ給養ヲ受クル者他人ノ給養ヲ受クル者ノ住居ナルトニ拘ハラサルモナルト他人ノ給養ヲ受クル者スルトキハ合シテ一戸ト認ムナルトニ拘ハラサルモ

ノトス又本邦人ト外國人ヲト論セサモノトス

第二 門戸ヲ異ニセサルモ戸籍ヲ異ニシ別ニ一屋ヲ構ヘ又ハ屋內ノ一部教室又ハ一室又ハ一室ノ一部トモヲ區劃シテ住居又ハ滞在シ一世帯ヲ成ス者

但官廳公署又ハ寺院説教場會社製造所倉庫等ノ一部ニテモ亦同シ其ノ他前同斷

第三 他人自己以外ノ住居スル屋內ノ一部ヲ區劃シテ住居若クハ滞在シ又ハ他人ト同居定籍寄留スト雖トモ獨滞在トモ

立ノ生計ヲ營ム事實アル者

但家屋ノ所有戸主非戸主ノ別ナキハ第一項但書ニ同シ

第四 其ノ他一戸ヲ構ヘタリト認ムヘキ者

○戸數割營業稅各人ノ賦課ノ標準ヲ設クルノ件 (明治三十五年九月廿六日 內務省訓第七一七號)

府縣稅戶數割及營業稅ノ賦課方ハ從來ノ慣行上府縣會ニ於テハ賦課ノ總額ヲ定ムルニ止リ其ノ各人賦課ノ等差ハ舉ケテ之ヲ市町村會ノ議決ニ一任セラル、向多ク有之ト雖是等差ヲ設タルニ當リ據ルヘキ一定ノ標準ナク漠然會議ノ見込ヲ以テ所謂見立割ヲナサシムルトキハ自然紛議ノ因トナルノミナラス其間種々ノ情弊ヲ生シ市町村會ヲ紛争ノ府タラシムルノ傾向ナキニアラス爾今戸數割及營業稅ノ賦課ニ付見立割ニ伴フ諸般ノ情弊ヲ矯正センカ爲メ最メテ其賦課規則ニ於テ賦課ノ標準ヲ設ケ或ハ其標準ヲ設クル手續ヲ定メ其他相當規定ヲ設ケテ嚴重監督ノ道ヲ擧ケンコトヲ期セラルヘシ

○戸數割營業稅等賦課標準ヲ設クルノ件 (明治三十六年一月二十日縣訓令第二號) 郡市役所町村役場訓令

明治三十三年一月縣令第二號地租割戸數割賦課規則第四條明治三十年十二月縣令第五十號營業稅雜種稅賦課規則第六條及明治三十四年三月縣令第十九號漁業稅採藻稅賦課規則第三條ニ依リ市町村會ニ於テ議定スル各其賦課方法ニハ各人各個ノ課額ヲ定ムル一定ノ標準ヲ設クヘシ

○同上ノ件 (明治三十六年三月五日地發第三六號) 內務省地方局長通牒

府縣稅戶數割營業稅賦課法ノ件客年九月二十六日訓令第七一七號ヲ以テ訓令相成候ニ付テハ戸數割ノ賦課ニ關シ一定ノ標準ヲ設ケ又ハ之ヲ設クルノ手續ヲ必ス府縣賦課規則中ニ規定スヘキモノ、如ク解釋セラレ問合之向モ有之候處同訓令ハ最メテ一定ノ標準ヲ設ケ以テ見立割ニ伴フ弊害ヲ避ケントスル旨趣ニ有之從テ賦課規則中ニハ別ニ標準ヲ定メス市町村ヲシテ賦課標準ヲ定メ貴官若クハ郡長ノ認可ヲ受ケシムル等便宜ノ方法ヲ採リ差支無之ノミナラス專ラ事實適切ノ結果ヲ得可申ト存候條爲念此段通牒ス

○戸數割營業稅等縣稅賦課ノ標準ヲ定ムル件 (明治卅六年一月廿日內五政第三三號) 內務部長ヨリ各郡長ヘ通牒

從來各町村會ニ於テ議定スル縣稅戶數割及營業稅雜種稅ノ賦課方法ハ其各人各個ノ課額ヲ定ムルニ一定ノ標準ナク漠然會議ノ見込ヲ以テ所謂見立割ヲ爲スカ如キ向往々有之右ハ自然紛議ノ因トナルノミナラス其間種々ノ情弊ヲ生シ市町村會ヲ紛争ノ府タラシムル傾向ナキニアラス依テ今回訓令第二號ノ通訓令相成候條ニ候條各町村ノ實況ニ照シ相當ノ標準ヲ設ケ、數種ノ事實ヲ適合スルモ妨ケナシ、適切ノ課額ヲ定ムル様爲ト注意セラレ度依命此段通牒ス

○戸數割重復賦課ノ件 (明治二十九年八月二日地第一七二四號) 一郡長ヨリ補生部長ニ回答